

厚生労働科学研究費補助金

難治性疾患等政策研究事業（難治性疾患政策研究事業）

アミロイドーシスに関する調査研究

平成 30 年度 総括研究報告書

研究代表者 内木 宏 延

令和元（2019）年 5 月

目次

[] 総括研究報告

アミロイドーシスに関する調査研究	1
研究代表者 内木宏延	

[] 研究成果の刊行に関する一覧表

書籍	26
雑誌	30

厚生労働科学研究費補助金 (難治性疾患等政策研究事業(難治性疾患政策研究事業))
 アミロイドーシスに関する調査研究班 総括研究報告書

アミロイドーシスに関する調査研究

研究代表者 内木 宏延 福井大学学術研究院医学系部門 分子病理学分野 教授

研究要旨 われわれは平成 29～31 年度に及ぶ本研究計画で、(1) 病理コンサルテーション体制を始めとするアミロイドーシスの総合的診断体制構築、(2) 同診断体制による診断件数、診断確定率、各病型症例数の集計・公表、(3) 診療ガイドライン、診断基準、重症度分類の妥当性・実用性検証と改定、(4) AMED 難病プラットフォームによるレジストリ研究の実施とデータを用いた疫学研究等の実施、(5) 各病型患者のケアマニュアル作成、(6) 専門医対象の臓器別アミロイドーシス診療の手引作成、(7) 患者向け公開講座等アミロイドーシスの啓発活動実施、の 7 項目を目指す。

今年度の成果を上記目的の番号と対応させて記す。(1) 4 月 1 日より研究班ホームページでコンサルテーションの受付を開始すると共に、病理 WG 各施設でも従来通り個別に受け付けることにより、総合的診断体制がスタートした。5 月 15 日には日本病理学会ホームページに当コンサルテーション体制が紹介され、受付数が増加した。(2) 同診断体制の各施設共通集計シートを作成し、2019 年 4 月 1 日～12 月 15 日の診断件数、診断確定率、各病型症例数を集計した。(3) 全身性アミロイドーシス各病型診断基準の研究班暫定案を作成し、日本循環器学会に承認を申請した。安東班で実施した全身性 AA アミロイドーシスに関する全国疫学調査を論文発表した。(4) 京都大学医の倫理審査委員会に中央倫理審査を申請するため、研究実施計画書「研究課題名: オールジャパンで行う全身性アミロイドーシスコホート研究 Japan Cohort Study of Systemic Amyloidosis (J-COSSA)」を作成した。(5) ファイザー製薬の協力を得て FAP 家族性アミロイドポリニューロパチーの患者ケアマニュアルを作成した。(6) 腎アミロイドーシス WG を中心に、厚労科研「難治性腎障害に関する調査研究」班ネフローゼ症候群 WG と合同で、腎アミロイドーシス診療ガイドライン WG 暫定案を作成した。(7) 熊本にて「道しるべの会」(FAP 家族性アミロイドポリニューロパチー患者・家族会) 講演会・総会(7 月 22 日)、交流会(12 月 1 日～2 日)を開催した。

研究分担者	奥田恭章	道後温泉病院リウマチセンター・内科 院長
安東由喜雄 熊本大学大学院生命科学研究部神経内科学分野 教授	西 慎一	神戸大学大学院医学研究科内科学講座腎臓・免疫内科学分野腎臓内科学部門 教授
山田正仁 金沢大学医薬保健研究域医学系脳老化・神経病態学(神経内科学)教授	畑 裕之	熊本大学大学院生命科学研究部先端生命医療科学部門医療技術科学講座生体情報解析学 教授
玉岡 晃 筑波大学医学医療系大学院人間総合科学研究科疾患制御医学専攻神経内科学分野 教授	小池春樹	名古屋大学大学院医学系研究科総合医学専攻脳神経病態制御学講座神経内科学 准教授
東海林幹夫 弘前大学大学院医学研究科脳神経内科学講座 教授	島崎千尋	独立行政法人地域医療機能推進機構 京都鞍馬口医療センター血液内科 院長
高市憲明 虎の門病院腎センター 副院長	飯田真介	名古屋市立大学大学院医学研究科生
山田俊幸 自治医科大学医学部臨床検査医学講座 教授		
重松 隆 和歌山県立医科大学医学部腎臓内科学講座 教授		

	体総合医療学講座血液・腫瘍内科分野 教授
植田光晴	熊本大学医学部附属病院神経内科講師
大橋健一	横浜市立大学大学院医学研究科医学部病態病理学講座/附属病院病理診断科病理部 教授
小野賢二郎	昭和大学医学部内科学講座神経内科学部門 教授
関島良樹	信州大学医学部内科学第三（脳神経内科、リウマチ・膠原病内科）教授
佐野元昭	慶應義塾大学医学部循環器内科学教室 准教授
田原宣広	久留米大学医学部内科学講座心臓・血管内科/循環器病センター 准教授

A. 研究目的

われわれは平成 29～31 年度に及ぶ本研究計画で、(1) 病理コンサルテーション体制を始めとするアミロイドーシスの総合的診断体制構築（平成 31 年 3 月までに）、(2) 同診断体制による診断件数、診断確定率、各病型症例数の集計・公表（平成 32 年 3 月までに）、(3) 診療ガイドライン、診断基準、重症度分類の妥当性・実用性検証と改定（平成 32 年 3 月までに）、(4) AMED 難病プラットフォームによるレジストリ研究の実施とデータを用いた疫学研究等の実施（平成 32 年 3 月までに）、(5) 各病型患者のケアマニュアル作成（平成 32 年 3 月までに）、(6) 専門医対象の臓器別アミロイドーシス診療の手引作成（平成 32 年 3 月までに）、(7) 患者向け公開講座等アミロイドーシスの啓発活動実施（平成 32 年 3 月までに）の 7 項目を目指す。

本研究計画は、「難病の患者に対する医療等に関する法律」（難病法）の求める以下の課題を直接解決するものであり、厚生労働行政の施策に直接活用できる成果を期待できると考える。(a) 病理コンサルテーション体制を始めとするアミロイドーシスの総合的診断体制の構築により、正確な早期診断や、適切な施設での各病型に応じた最新の診療が可能になる。(b) 信頼性の高いオールジャパンの診断体制を基盤としたレジストリ構

築により、全国的にバランスの取れた、特定の地域に偏らないコホート研究が可能となり、レジストリ研究の優れたモデルとなることが期待される。(c) アミロイドーシス診断基準・重症度分類・診療ガイドラインの改訂作業により、アミロイドーシス医療の水準向上（均てん化）に資すると共に、新規に発症するアミロイドーシス患者の実態を把握できる。(d) 関連学会との連携体制を構築し、アミロイドーシスの疾患概念、早期診断、および最新の治療に関し、関連学会や非専門医、患者、一般国民への普及・啓発を推進できる。(e) アミロイドーシス患者ケアマニュアルの作成等により、患者の療養生活環境整備や QOL 向上に資する事ができる。(f) 指定難病データベース（平成 29 年度中に稼働開始予定）の構築に向けたデータを提供できる。

B. 研究方法

【項目番号は研究の目的に対応】(1)～(6)の各項目は、第 1 回研究班会議（平成 30 年 8 月 25 日、松本）、第 2 回研究班会議（平成 31 年 2 月 15 日、東京）および各 WG で随時開催するメール会議で議論・決定した。(7)は研究分担者の安東、植田（いずれも熊本大学）を中心に実施した。

（倫理面への配慮）

(1)に関し、個人情報保護には細心の注意を払う。また、オプトアウトにより対象患者に研究不参加の機会を与える。福井大学医学系研究倫理審査委員会で「病理検体のアミロイドーシス病型診断コンサルテーション体制の構築」の受審・承認を得た（平成 29 年 12 月 15 日）。これを基に病理 WG 各施設で順次倫理審査を受審し承認を得た。本コンサルテーション体制の精度管理を行うため、われわれは診断総数及び各病型症例数（免疫染色で確定できずプロテオーム解析を実施した症例を含む）のみ集計する。このためコンサルテーション依頼施設での倫理審査は要求しない。(4)に関し、京都大学医の倫理審査委員会に中央倫理審査を申請する。

C. 研究結果

【項目番号は研究の目的に対応】(1) 4月1日より

研究班ホームページでコンサルテーションの受付を開始すると共に、病理WG各施設でも従来通り個別に受け付けることにより、総合的診断体制がスタートした。5月15日には日本病理学会ホームページに当コンサルテーション体制が紹介され、受付数が増加した。(2) 同診断体制の各施設共通集計シートを作成し、2019年4月1日～12月15日の診断件数(425件)、診断確定率(94.8%)、各病型症例数(AA 15, ALκ 53, ALλ 132, ATTR 160, Aβ2M 1, others 5)を集計した。(3) 全身性アミロイドーシス各病型(AL/AH, ATTRv, ATTRwt, 他の遺伝性)に対する診断基準の研究班暫定案を作成し、日本循環器学会に承認を申請した。安東班で実施した全身性AAアミロイドーシスに関する全国疫学調査を論文発表した。(4) 京都大学医の倫理審査委員会に中央倫理審査を申請するため、研究実施計画書「研究課題名：オールジャパンで行う全身性アミロイドーシスコホート研究Japan Cohort Study of Systemic Amyloidosis (J-COSSA)」を作成した。(5) ファイザー製薬の協力を得てFAP家族性アミロイドポリニューロパチーの患者ケアマニュアルを作成した。(6) 腎アミロイドーシスWGを中心に、厚労科研「難治性腎障害に関する調査研究」班ネフローゼ症候群WGと合同で、腎アミロイドーシス診療ガイドラインWG暫定案を作成した。(7) 熊本にて「道しるべの会」(FAP家族性アミロイドポリニューロパチー患者・家族会)講演会・総会(7月22日)、交流会(12月1日～2日)を開催した。

D. 考察

【項目番号は研究の目的に対応】(1) ロンドン大学医学部 Centre for Amyloidosis and Acute Phase Proteins を始め、国内外からアミロイドーシスのコンサルテーションを受け付ける referral centre は世界に数カ所存在するが、国内数カ所の施設で抗体を共有し、ネットワークを結んでコンサルテーションを受け付ける体制は、世界的に見ても類を見ない独創的取り組みである。次年度以降、病理コンサルテーション体制を始めとするアミロイドーシスの総合的診断体制を維持・発展させる。(2) 次年度以降も、同診断体制による診断件数、診断確定率、各病型症例数を集計・公表する。(3)

次年度、関連学会(日本循環器学会、日本神経学会、日本血液学会、日本腎臓学会、日本アミロイドーシス学会等)で承認を得た後、診断基準を公表する。現在アミロイドーシス各病型に対応する系統的な国際診断基準自体が無く、本診断基準の策定は、日本国内はもとより、英文論文による発表などを通して国際的にも意義のある取り組みとなり得る。(4) 次年度以降、AMED 難病プラットフォームによるレジストリ研究を開始すると共に、データを用いた疫学研究等を実施する。(5) 今年度研究会議や各WGで行った議論を基に、内容等の検討をさらに進め、次年度以降、各病型アミロイドーシス患者のケアマニュアルを公表する。(6) 今年度研究会議や各WGで行った議論を基に、内容等の検討をさらに進め、次年度以降、心、腎アミロイドーシス診療の手引を公表する。(7) 熊本にて「道しるべの会」講演会・総会、交流会を引き続き開催すると共に、他地域の家族会も引き続き活動を続け、全国的な交流を促進する。

E. 結論

研究班ホームページでコンサルテーションの受付を開始することにより、総合的診断体制を開始し、診断件数、診断確定率、各病型症例数を集計した。全身性アミロイドーシス各病型診断基準の研究班暫定案を作成し、日本循環器学会に承認を申請した。安東班で実施した全身性AAアミロイドーシスに関する全国疫学調査を論文発表した。京都大学医の倫理審査委員会に中央倫理審査を申請するため、研究実施計画書「研究課題名：オールジャパンで行う全身性アミロイドーシスコホート研究 Japan Cohort Study of Systemic Amyloidosis (J-COSSA)」を作成した。FAP 家族性アミロイドポリニューロパチーの患者ケアマニュアルを作成した。厚労科研「難治性腎障害に関する調査研究」班と合同で、腎アミロイドーシス診療ガイドライン暫定案を作成した。熊本にて「道しるべの会」(FAP 家族性アミロイドポリニューロパチー患者・家族会)講演会・総会、交流会を開催した。

F. 健康危険情報

なし。

G. 研究発表

1. 論文発表

内木宏延

1) Endo Y, Hasegawa K, Nomura R, Arishima H, Kikuta KI, Yamashita T, Inoue Y, Ueda M, Ando Y, Wilson MR, Hamano T, Nakamoto Y, Naiki H: Apolipoprotein E and clusterin inhibit the early phase of amyloid- β aggregation in an in vitro model of cerebral amyloid angiopathy. *Acta Neuropathol Commun* 7(1): 12, 2019.

2) Adachi M, Noji M, So M, Sasahara K, Kardos J, Naiki H, Goto Y: Aggregation-phase diagrams of β 2-microglobulin reveal temperature and salt effects on competitive formation of amyloids versus amorphous aggregates. *J Biol Chem* 293(38): 14775-14785, 2018.

安東由喜雄

1) Endo Y, Hasegawa K, Nomura R, Arishima H, Kikuta KI, Yamashita T, Inoue Y, Ueda M, Ando Y, Wilson MR, Hamano T, Nakamoto Y, Naiki H: Apolipoprotein E and clusterin inhibit the early phase of amyloid- β aggregation in an in vitro model of cerebral amyloid angiopathy. *Acta Neuropathol Commun* 7(1): 12, 2019.

2) Nakamura M, Misumi Y, Nomura T, Oka W, Isoguchi A, Kanenawa K, Masuda T, Yamashita T, Inoue Y, Ando Y, Ueda M: Extreme Adhesion Activity of Amyloid Fibrils Induces Subcutaneous Insulin Resistance. *Diabetes* 68(3): 609-616, 2019.

3) Kameyama H, Uchimura K, Yamashita T, Kuwabara K, Mizuguchi M, Hung SC, Okuhira K, Masuda T, Kosugi T, Ohgita T, Saito H, Ando Y, Nishitsuji K: The accumulation of heparan sulfate S-domains in kidney transthyretin deposits accelerates fibril formation and promotes cytotoxicity. *Am J Pathol* 189(2): 308-319, 2019.

4) Kato TS, Ikeda N, Maurer MS, Ando Y, Tanno K: Transthyretin stabilizer is associated with expanding apical sparing area and improving global cardiac function in a patient with wild-type cardiac

amyloidosis *Circ J* 83(3): 690, 2019.

5) Tasaki M, Ueda M, Hoshii Y, Mizukami M, Matsumoto S, Nakamura M, Yamashita T, Ueda A, Misumi Y, Masuda T, Inoue Y, Torikai T, Nomura T, Tsuda Y, Kanenawa K, Isoguchi A, Okada M, Matsui H, Obayashi K, Ando Y: A novel age-related venous amyloidosis derived from EGF-containing fibulin-like extracellular matrix protein 1. *J Pathol* 2018 in press.

6) Yamamoto H, Hashimoto T, Kawamura S, Hiroe M, Yamashita T, Ando Y, Yokochi T: Hereditary cardiac amyloidosis associated with Pro24Ser transthyretin mutation: a case report. *J Med Case Rep* 12(1): 370, 2018.

7) Tsuda Y, Yamanaka K, Toyoshima R, Ueda M, Masuda T, Misumi Y, Ogura T, Ando Y: Development of transgenic *Caenorhabditis elegans* expressing human transthyretin as a model for drug screening. *Sci Rep* 8(1): 17884, 2018.

8) Ueda M, Yamashita T, Misumi Y, Masuda T, Ando Y: Origin of sporadic late-onset hereditary ATTR Val30Met amyloidosis in Japan. *Amyloid* 25(3): 143-147, 2018.

9) Masuda T, Ueda M, Kitajima M, Morita K, Misumi Y, Yamashita T, Obayashi K, Yamashita Y, Ando Y: Teaching NeuroImages: Morphology of lumbosacral dorsal root ganglia and plexus in hereditary transthyretin amyloidosis. *Neurology* 91(19): e1834-e1835, 2018.

10) Hirakawa K, Takashio S, Marume K, Yamamoto M, Hanatani S, Yamamoto E, Sakamoto K, Izumiya Y, Kaikita K, Oda S, Utsunomiya D, Shiraiishi S, Ueda M, Yamashita T, Yamashita Y, Ando Y, Tsujita K: Non-Val30Met mutation, septal hypertrophy, and cardiac denervation in patients with mutant transthyretin amyloidosis. *ESC Heart Fail* 6(1): 122-130, 2018.

11) Okuda Y, Yamada T, Ueda M, Ando Y: First nationwide survey of 199 patients with amyloid A amyloidosis in Japan. *Intern Med* 57(23): 3351-3355, 2018.

12) Nakano Y, Tadokoro K, Ohta Y, Sato K, Takemoto M, Hishikawa N, Yamashita T, Yamashita T, Ando Y, Abe K: Two cases of late onset familial amyloid

- polyneuropathy with a Glu61Lys transthyretin variant. *J Neurol Sci* 390: 22-25, 2018.
- 13) Ikeda T, Masuda T, Ueda M, Yamashita T, Misumi Y, Shinriki S, Ando Y: Unwanted road to anaemia in transthyretin familial amyloid polyneuropathy may continue irrespective of tafamidis treatment. *Ann Clin Biochem* 55(5): 571-575, 2018.
- 14) Tsuda N, Shiraishi S, Oda S, Ogasawara K, Sakamoto F, Tomiguchi S, Fujisue K, Takashio S, Izumiya Y, Tsujita K, Ando Y, Yamashita Y: Utility of single-photon emission computed tomography/computed tomography fusion imaging with 99 mTc-pyrophosphate scintigraphy in the assessment of cardiac transthyretin amyloidosis. *Circ J* 82(7): 1970-1971, 2018.
- 15) Nishi S, Hoshino J, Yamamoto S, Goto S, Fujii H, Ubara Y, Motomiya Y, Morita H, Takaichi K, Yamagata K, Shigematsu T, Ueda M, Ando Y: Multicentre cross-sectional study for bone-articular lesions associated with dialysis related amyloidosis in Japan. *Nephrology (Carlton)* 23(7): 640-645, 2018.
- 16) 山下太郎, 植田光晴, 安東由喜雄: 手根管症候群に潜む疾患の鑑別と治療 TTR-FAP: トランスサイレチン型家族性アミロイドポリニューロパチー. *末梢神経* 29(2): 224-231, 2018.
- 17) 三隅洋平, 安東由喜雄: siRNA を用いた核酸医薬品の開発状況. *Medical Science Digest* 45(1): 17-20, 2019.
- 18) 山下太郎, 安東由喜雄: アミロイドーシスの最近の知見. *皮膚病診療* 40(11): 1086-1092, 2018.
- 19) 植田光晴, 安東由喜雄: 遺伝性ニューロパチー 家族性アミロイドポリニューロパチー. *Clinical Neuroscience* 36(9): 1075-1079, 2018.
- 20) 植田光晴, 三隅洋平, 増田曜章, 津田幸元, 井上泰輝, 野村隼也, 山下太郎, 安東由喜雄: トランスサイレチンフラグメントのアミロイド形成および細胞毒性の解析. *末梢神経* 29(1): 42-49, 2018.
- 21) 三隅洋平, 安東由喜雄: 主要疾患としびれ感, その対応 アミロイドニューロパチー. *Clinical Neuroscience* 36(4): 464-466, 2018.
- 山田正仁
- 1) Buxbaum JN, Brannagan III TH, Cisneros-Barroso E, Buades J, Conceição I, Kyriakides T, Obici L, Merlini G, Planté-Bordeneuve V, Rousseau A, Sekijima Y, Waddington M, Yamada M (*The consortium for the analysis of ocular TTR deposition): Transthyretin deposition in the eye in the era of effective therapy for hereditary amyloid polyneuropathy. *Amyloid* 24:1-5, 2019.
- 2) Hamaguchi T, Komatsu J, Sakai K, Noguchi-Shinohara M, Aoki S, Ikeuchi T, Yamada M: Cerebral hemorrhagic stroke associated with cerebral amyloid angiopathy in young adults about 3 decades after neurosurgeries in their infancy. *J Neurol Sci* 399:3-5, 2019.
- 玉岡 晃
- 1) Miyake Z, Tomidokoro Y, Tsurubuchi T, Matsumura A, Sakamoto N, Noguchi M, Tamaoka A: Intravascular large B-cell lymphoma presenting with hearing loss and dizziness: A case report. *Medicine (Baltimore)* 98(7): e14470, 2019.
- 2) Shiraiwa N, Tamaoka A, Ohkoshi N: Clinical features of drug-induced Parkinsonism. *Neurol Int* 10(4): 7877, 2018.
- 3) Yamamoto F, Taniguchi K, Mamada N, Tamaoka A, Kametani F, Lakshmana MK, Araki W: TFEB-mediated enhancement of the autophagy-lysosomal pathway dually modulates the process of amyloid β -protein generation in neurons. *Neuroscience* 402: 11-22, 2019.
- 4) Tsuji H, Ayako S, Takayashiki N, Irie T, Itoi S, Kodama T, Kaji Y, Matsuoka R, Mashiko R, Shibata Y, Ishii A, Siato Y, Tamaoka A: Meningeal carcinomatosis presenting with leukoencephalopathy-like imaging findings. *eNeurologicalSci* 14: 21-23, 2019.
- 5) Nakamagoe K, Yamada S, Kawakami R, Miyake Z, Tozaka N, Okune S, Takeda H, Koganezawa T, Tamaoka A: Vestibular dysfunction as cortical damage with amyotrophic lateral sclerosis. *J Neurol Sci* 397: 4-8, 2018.
- 6) Tomono T, Hirai Y, Okada H, Miyagawa Y, Adachi K, Sakamoto S, Kawano Y, Chono H, Mineno J, Ishii

- A, Shimada T, Onodera M, Tamaoka A, Okada T: Highly efficient ultracentrifugation-free chromatographic purification of recombinant AAV serotype 9. *Mol Ther Methods Clin Dev* 11: 180-190, 2018.
- 7) Hosaka T, Yamashita T, Teramoto S, Hirose N, Tamaoka A, Kwak S: ADAR2-dependent A-to-I RNA editing in the extracellular linear and circular RNAs. *Neurosci Res* 2018, in press.
- 8) Miyake Z, Ishii K, Tamaoka A: Hypothyroidism induced by phenytoin and gabapentin: A Case Report. *Medicine (Baltimore)* 97(43): e12938, 2018.
- 9) Miyake Z, Nakamagoe K, Ezawa N, Yoshinaga T, Hashimoto R, Sato T, Sekijima Y, Tamaoka A: Late-onset transthyretin (TTR)-familial amyloid polyneuropathy (FAP) with a long disease duration from non-endemic areas in Japan. *Intern Med* 58(5): 713-718, 2019.
- 10) Yamada E, Ishikawa E, Watanabe R, Matsumura H, Sakamoto N, Ishii A, Tamaoka A, Hattori K, Obara N, Chiba S, Nakamagoe K, Matsuda M, Tsurubuchi T, Tomidokoro Y, Akutsu H, Zaboronok A, Shibuya M, Takano S, Matsumura A: Random skin biopsies before brain biopsy for intravascular large B-cell lymphoma. *World Neurosurg* 121: e364-e369, 2019.
- 11) Ishii K, Nemoto K, Iwasaki N, Takeda T, Masuda T, Shibata Y, Tamaoka A: Decreased regional cerebral blood flow in patients with diphenylarsinic acid intoxication. *Eur J Neurol* 26(1): 136-141, 2019.
- 12) Terada M, Suzuki G, Nonaka T, Kametani F, Tamaoka A, Hasegawa M: The effect of truncation on prion-like properties of α -synuclein. *J Biol Chem* 293(36): 13910-13920, 2018.
- 13) Nakamagoe K, Yanagiha H, Miyake Z, Kondo Y, Hiyama T, Ishii A, Kaji Y, Oshika T, Sumida T, Tamaoka A: Monocular oculomotor nerve disorder manifesting as cranial neuropathy in systemic lupus erythematosus. *Intern Med* 57(23): 3445-3449, 2018.
- 14) Miyake Z, Ishii K, Matsuo H, Higuchi O, Tamaoka A: Isolated bilateral abducens paralysis without ptosis in an anti-LDL receptor-related protein 4 antibody-positive patient treated effectively with steroid-pulse therapy. *J Neurol Sci* 390: 42-43, 2018.
- 15) Masuda T, Ishii K, Morishita Y, Iwasaki N, Shibata Y, Tamaoka A: Hepatic histopathological changes and dysfunction in primates following exposure to organic arsenic diphenylarsinic acid. *J Toxicol Sci* 43(5): 291-298: 2018.
- 16) Kuwabara S, Misawa S, Mori M, Iwai Y, Ochi K, Suzuki H, Nodera H, Tamaoka A, Iijima M, Toda T, Yoshikawa H, Kanda T, Sakamoto K, Kusunoki S, Sobue G, Kaji R; Glovenin-I MMN Study Group: Intravenous immunoglobulin for maintenance treatment of multifocal motor neuropathy: A multi-center, open-label, 52-week phase 3 trial. *J Peripher Nerv Syst* 23(2): 115-119, 2018.
- 17) Yamada K, Shiraishi H, Oki E, Ishige M, Fukao T, Hamada Y, Sakai N, Ochi F, Watanabe A, Kawakami S, Kuzume K, Watanabe K, Sameshima K, Nakamagoe K, Tamaoka A, Asahina N, Yokoshiki S, Miyakoshi T, Ono K, Oba K, Isoe T, Hayashi H, Yamaguchi S, Sato N: Open-label clinical trial of bezafibrate treatment in patients with fatty acid oxidation disorders in Japan. *Mol Genet Metab Rep* 15: 55-63, 2018.
- 18) Ishiura H, Doi K, Mitsui J, Yoshimura J, Matsukawa MK, Fujiyama A, Toyoshima Y, Kakita A, Takahashi H, Suzuki Y, Sugano S, Qu W, Ichikawa K, Yurino H, Higasa K, Shibata S, Mitsue A, Tanaka M, Ichikawa Y, Takahashi Y, Date H, Matsukawa T, Kanda J, Nakamoto FK, Higashihara M, Abe K, Koike R, Sasagawa M, Kuroha Y, Hasegawa N, Kaneshawa N, Kondo T, Hitomi T, Tada M, Takano H, Saito Y, Sanpei K, Onodera O, Nishizawa M, Nakamura M, Yasuda T, Sakiyama Y, Otsuka M, Ueki A, Kaida KI, Shimizu J, Hanajima R, Hayashi T, Terao Y, Inomata-Terada S, Hamada M, Shirota Y, Kubota A, Ugawa Y, Koh K, Takiyama Y, Ohsawa-Yoshida N, Ishiura S, Yamasaki R, Tamaoka A, Akiyama H, Otsuki T, Sano A, Ikeda A, Goto J, Morishita S, Tsuji S: Expansions of intronic TTTCA and TTTTA repeats in benign adult familial myoclonic epilepsy. *Nat Genet* 50(4): 581-590, 2018.
- 19) 森山哲也, 中馬越清隆, 玉岡晃: バセドウ病を合併し、抗 CCP 抗体が陽性であった無菌性髄膜炎. *日本医事新報* 4949: 10-11, 2019.
- 20) 武田勇人, 三宅善嗣, 辻浩史, 玉岡晃: 仙骨硬膜外ブロック後下肢運動感覚障害の造悪が認めら

れた脊髄動静脈瘤. 日本医事新報 4936: 10-11, 2018.

21)玉岡晃: 認知症の脳脊髄液診断. 実施診療のための最新認知症学. 日本臨床 76(増刊号 1): 44-49, 2018.

東海林幹夫

1) Preische O, Schultz SA, Apel A, Kuhle J, Kaeser SA, Barro C, Gräber S, Kuder-Buletta E, LaFougere C, Laske C, Vöglein J, Levin J, Masters CL, Martins R, Schofield PR, Rossor MN, Graff-Radford NR, Salloway S, Ghetti B, Ringman JM, Noble JM, Chhatwal J, Goate AM, Benzinger TLS, Morris JC, Bateman RJ, Wang G, Fagan AM, McDade EM, Gordon BA, Jucker M; Dominantly Inherited Alzheimer Network: Serum neurofilament dynamics predicts neurodegeneration and clinical progression in presymptomatic Alzheimer's disease. *Nat Med* 25(2): 277-283, 2019.

2) Seino Y, Nakamura T, Kawarabayashi T, Hirohata M, Narita S, Wakasaya Y, Kaito K, Ueda T, Harigaya Y, Shoji M: Cerebrospinal fluid and plasma biomarkers in neurodegenerative diseases. *J Alzheimers Dis* 68(1): 395-404, 2019.

3) Nakamura T, Kawarabayashi T, Seino Y, Hirohata M, Nakahata N, Narita S, Itoh K, Nakaji S, Shoji M: Aging and APOE-ε4 are determinative factors of plasma Aβ42 levels. *Ann Clin Transl Neurol* 5(10): 1184-1191, 2018.

4) Iwatsubo T, Iwata A, Suzuki K, Ihara R, Arai H, Ishii K, Senda M, Ito K, Ikeuchi T, Kuwano R, Matsuda H; Japanese Alzheimer's Disease Neuroimaging Initiative, Sun CK, Beckett LA, Petersen RC, Weiner MW, Aisen PS, Donohue MC; Alzheimer's Disease Neuroimaging Initiative: Japanese and North American Alzheimer's Disease Neuroimaging Initiative studies: Harmonization for international trials. *Alzheimers Dement* 14(8): 1077-1087, 2018.

高市憲明

1) Nishi S, Hoshino J, Yamamoto S, Goto S, Fujii H, Ubara Y, Motomiya Y, Morita H, Takaichi K,

Yamagata K, Shigematsu T, Ueda M, Ando Y: Multicentre cross-sectional study for bone-articular lesions associated with dialysis related amyloidosis in Japan. *Nephrology (Carlton)* 23(7): 640-645, 2018.

山田俊幸

1) Okuda Y, Yamada T, Ueda M, Ando Y: First nationwide survey of 199 patients with amyloid A amyloidosis in Japan. *Intern Med* 57: 3351-3355, 2018.

2) Tanaka M, Kawakami T, Okino N, Sasaki K, Nakanishi K, Takase H, Yamada T, Mukai T: Acceleration of amyloid fibril formation by carboxyl-terminal truncation of human serum amyloid A. *Arch Biochem Biophys* 639: 9-15, 2018.

重松 隆

1) Ishida K, Ashizawa N, Matsumoto K, Kobashi S, Kurita N, Shigematsu T, Iwanaga T: Novel bisphosphonate compound FYB-931 preferentially inhibits aortic calcification in vitamin D3-treated rats. *J Bone Miner Metab* 2019, in press.

2) Kawakami K, Ohya M, Shigematsu T: The prevention and treatment of vascular calcification. *Clinical Calcium* 29(2): 231-236, 2019

3) Shoji T, Inaba M, Fukagawa M, Ando R, Emoto M, Fujii H, Fujimori A, Fukui M, Hase H, Hashimoto T, Hirakata H, Honda H, Hosoya T, Ikari Y, Inaguma D, Inoue T, Isaka Y, Iseki K, Ishimura E, Itami N, Ito C, Kakuta T, Kawai T, Kawanishi H, Kobayashi S, Kumagai J, Maekawa K, Masakane I, Minakuchi J, Mitsui K, Mizuguchi T, Morimoto S, Murohara T, Nakatani T, Negi S, Nishi S, Nishikawa M, Ogawa T, Ohta K, Ohtake T, Okamura M, Okuno S, Shigematsu T, Sugimoto T, Suzuki M, Tahara H, Takemoto Y, Tanaka K, Tominaga Y, Tsubakihara Y, Tsujimoto T, Tsuruya K, Ueda S, Watanabe Y, Yamagata K, Yamakawa T, Yano S, Yokoyama K, Yorioka N, Yoshiyama M, Nishizawa Y: Effect of oral alfacalcidol on clinical outcomes in patients without secondary hyperparathyroidism receiving maintenance hemodialysis : The J-DAVID randomized clinical trial. *JAMA* 320(22): 2325-2334, 2018.

4) Efficacy and Safety of Once-Monthly Risedronate in Osteoporosis Subjects with Mild to Moderate Chronic Kidney Disease: A Post Hoc Subgroup Analysis of a Phase III Trial in Japan. Toshitsugu Sugimoto, Daisuke Inoue, Masayuki Maehara, Ichiro Oikawa, Takashi Shigematsu, Yoshiki Nishizawa. *J. Bone Miner Metab* 2019 in press.

5) Shinichi Nishi, Junichi Hoshino, Suguru Yamamoto, Shunsuke Goto, Hideki Fujii, Yoshifumi Ubara, Yoshihiro Motomiya, Hiroyuki Morita, Kenmei Takaichi, Kunihiro Yamagata, Takashi Shigematsu, Mitsuharu Ueda, Yukio Ando: Multicentre cross-sectional study for bone-articular lesions associated with dialysis related amyloidosis in Japan. *Nephrology* 23(7): 640-645, 2018.

6) Masaki Ohya, Mitsuru Yashiro, Tomohiro Sonou, Kouji Okuda, Toru Mima, Yoshinori Tone, Shigeo Negi, Yasushi Saika, Takashi Shigematsu: Intravenous maxacalcitol therapy correlates with serum fibroblast growth factor 23 levels in hemodialysis patients independent of serum phosphate or calcium levels. *Contrib Nephrol* 196: 44-51, 2018.

7) Yuko Iwashita, Masaki Ohya, Mitsuru Yashiro, Tomohiro Sonou, Kazuki Kawakami, Yuri Nakashima, Takuro Yano, Yu Iwashita, Toru Mima, Shigeo Negi, Kaoru Kubo, Koichi Tomoda, Toshitaka Odamaki, Takashi Shigematsu: Dietary changes involving *Bifidobacterium longum* and other nutrients delays CKD progression. *Am J Nephrol* 47(5): 325-332, 2018.

8) Takashi Shigematsu, Masafumi Fukagawa, Keitaro Yokoyama, Takashi Akiba, Akifumi Fujii, Motoi Odani, Tadao Akizawa: Long-term effects of etelcalcetide as intravenous calcimimetic therapy in hemodialysis patients with secondary hyperparathyroidism. *Clin Exp Nephrol* 22: 426-436, 2018.

奥田恭章

1) Y Okuda, T Yamada, M Ueda, Y Ando: First nationwide survey of 199 reactive amyloid A amyloidosis in Japan. *Intern Med* 57: 3351-3355, 2018.

2) Y Okuda: AA amyloidosis – Benefits and prospects

of IL-6 Inhibitors. *Mod Rheumatol* 2018, in press.

3) S Tsujimoto, S Mokuda, K Matoba, A Yamada, K Jouyama, Y Murata, Y Ozaki, T Ito, S Nomura, Y Okuda: The prevalence of endoscopic gastric mucosal damage in patients with rheumatoid arthritis. *PLoS One* 13(7): e0200023, 2018.

畑 裕之

1) Shimazaki C, Hata H, Iida S, Ueda M, Katoh N, Sekishima Y, Ikeda S, Yazaki M, Fukushima W, Ando Y. Nationwide Survey of 741 Patients with Systemic Amyloid Light-chain Amyloidosis in Japan. *Intern Med.* 2018 Jan 15;57(2):181-187. doi: 10.2169/internalmedicine.9206-17. [Epub ahead of print]

2) Eri Fujii, Yuki Inada, Misaki Kakoki, Nao Nishimura, Shinya Endo, Shiho Fujiwara, Naoko Wada, Yawara Kawano, Yutaka Okuno, Toshiya Sugimoto, Hiroyuki Hata. Bufalin induces DNA damage response under hypoxic condition in myeloma cells. *Oncol Lett* 15(5): 6443-6449.

3) Kasamatsu T, Ozaki S, Saitoh T, Konishi J, Sunami K, Itagaki M, Asaoku H, Cho T, Handa H, Hagiwara S, Wakayama T, Negoro A, Takezako N, Harada N, Kuroda Y, Nakaseko C, Miyake T, Inoue N, Hata H, Shimazaki C, Ohno T, Kuroda J, Murayama T, Kobayashi T, Abe M, Ishida T, Nagura E, Shimizu K. Unsuppressed serum albumin levels may jeopardize the clinical relevance of the international staging system to patients with light chain myeloma. *Hematol Oncol* 36(5): 792-800, 2018.

4) Oda S, Nakaura T, Utsunomiya D, Nakaura T, Takashio S, Izumiya Y, Tsujita K, Ueda M, Yamashita T, Ando Y, Kawano Y, Okuno Y, Hata H, Yamashita Y. Role of Noninvasive Diagnostic Imaging in Cardiac Amyloidosis: A Review *Cardiovascular Imaging Asia* 2018 2(2):97-106.

5) Endo S, Nishimura N, Kawano Y, Ueno N, Ueno S, Tatetsu H, Komohara Y, Takeya M, Hata H, Mitsuya H, Masao M. MUC1/KL-6 expression confers an aggressive phenotype upon myeloma cells. *Biochem Biophys Res Commun.* 2018 Nov 9. pii: S0006-291X (18)32414-8. doi: 10.1016/j.bbrc.2018.11.016.

6) 河野和, 松岡雅雄, 畑裕之: AL アミロイドーシスの診断と治療の進歩. 日本臨床 76(7): 1242-1248, 2018.

小池春樹

1) Koike H, Myelopathy and neuropathy associated with alcoholism. In: Preedy VR, editor. *The Neuroscience of Alcohol: Mechanisms and Treatment*, Elsevier, Amsterdam, in press.

2) Koike H, Nishi R, Ikeda S, Kawagashira Y, Iijima M, Katsuno M, Sobue G. Evolution of amyloid fibrils in hereditary transthyretin amyloidosis: an ultrastructural study. *Amyloid*, in press.

3) Koike H, Nakamura T, Nishi R, Ikeda S, Kawagashira Y, Iijima M, Katsuno M, Sobue G. Cardiac and peripheral vasomotor autonomic functions in hereditary transthyretin amyloidosis with non-Val30Met mutation. *Amyloid*, in press.

4) Koike H, Nakamura T, Nishi R, Ikeda S, Kawagashira Y, Iijima M, Yasuda T, Mukai E, Date Y, Shiomi K, Nakazato M, Katsuno M, Sobue G. Common clinicopathological features in late-onset hereditary transthyretin amyloidosis (Ala97Gly, Val94Gly, and Val30Met). *Amyloid*, in press.

5) Koike H, Katsuno M. Ultrastructure in transthyretin amyloidosis: from pathophysiology to therapeutic insights. *Biomedicine* 7(1): 11, 2019

6) Koike H, Katsuno M, Sobue G. New teased-fibre definitions represent specific mechanisms of neuropathy. *J Neurol Neurosurg Psychiatry* 90(2): 124, 2019

7) Koike H, Nishi R, Ikeda S, Kawagashira Y, Iijima M, Katsuno M, Sobue G. Ultrastructural mechanisms of macrophage-induced demyelination in CIDP. *Neurology* 91(23): 1051-1060, 2018

8) Koike H, Katsuno M, Sobue G. Deciphering mechanism and spectrum of chronic inflammatory demyelinating polyneuropathy by morphology. *Clin Exp Neuroimmunol* 9(1): 35-46, 2018

9) Koike H, Nishi R, Ikeda S, Kawagashira Y, Iijima M, Sakurai T, Shimohata T, Katsuno M, Sobue G. The morphology of amyloid fibrils and their impact on tissue damage in hereditary transthyretin amyloidosis:

An ultrastructural study. *J Neurol Sci* 394: 99-106, 2018

10) Koike H, Nishi R, Ikeda S, Kawagashira Y, Iijima M, Atsuta N, Nakamura T, Hiayama M, Ogata H, Yamasaki R, Kira JI, Katsuno M, Sobue G. Restoration of a conduction block after the long-term treatment of CIDP with anti-neurofascin 155 antibodies: follow-up of a case over 23 years. *Intern Med* 57: 2061-2066, 2018

11) Koike H, Yasuda T, Nishi R, Ikeda S, Kawagashira Y, Iijima M, Sobue G, Katsuno M. Systemic angiopathy and axonopathy in hereditary transthyretin amyloidosis with Ala97Gly (p. Ala117Gly) mutation: a post-mortem analysis. *Amyloid* 25(2): 141-142, 2018

12) Koike H, Nakamura T, Nishi R, Ikeda S, Kawagashira Y, Iijima M, Katsuno M, Sobue G. Widespread cardiac and vasomotor autonomic dysfunction in von-Val30Met hereditary transthyretin amyloidosis. *Intern Med* 57(23): 3365-3370, 2018

13) Nakamura T, Koike H, Nishi R, Ikeda S, Kawagashira Y, Iijima M, Katsuno M, Sobue G. Cardiovascular autonomic functions in late-onset hereditary transthyretin amyloidosis with Val30Met mutation. *Amyloid*, in press.

14) Adams D, Koike H, Slama M, Coehlo T. Familial amyloid polyneuropathies: a model of medical progress for a fatal disease. *Nat Rev Neurol*, in press.

15) Kondo N, Tohnai G, Sahashi K, Iida M, Nakatsuji J, Tsutsumi Y, Hashizume A, Adachi H, Koike H, Shinjo K, Kondo Y, Sobue G, Katsuno M. DNA methylation inhibitor attenuates polyglutamine-induced neurodegeneration by regulating Hes5. *EMBO Mol Med*, in press.

16) Ando T, Iijima M, Fukami Y, Nishi R, Ikeda S, Yokoi S, Kawagashira Y, Koike H, Muro Y, Katsuno M. Vasculitic neuropathy with anti-phosphatidylserine/prothrombin complex antibody. *Muscle Nerve*, in press.

17) Misawa S, Kuwabara S, Sato Y, Yamaguchi N, Nagashima K, Katayama K, Sekiguchi Y, Iwai Y, Amino H, Suichi T, Yokota T, Nishida Y, Kanouchi T, Kohara N, Kawamoto M, Ishii J, Kuwahara M, Suzuki H, Hirata K, Kokubun N, Masuda R, Kaneko J, Yabe I,

- Sasaki H, Kaida KI, Takazaki H, Suzuki N, Suzuki S, Nodera H, Matsui N, Tsuji S, Koike H, Yamasaki R, Kusunoki S; Japanese Eculizumab Trial for GBS (JET-GBS) Study Group. Safety and efficacy of eculizumab in Guillain-Barré syndrome: a multicentre, double-blind, randomised phase 2 trial. *Lancet Neurol* 17(6): 519-529, 2018.
- 18) Sekijima Y, Yazaki M, Ueda M, Koike H, Yamada M, Ando Y. First nationwide survey on systemic wild-type ATTR amyloidosis in Japan. *Amyloid* 25(1): 8-10, 2018
- 19) Ikumi K, Tsuboi T, Atsuta N, Takeuchi K, Koike H, Katsuno M. Long-standing overt ventriculomegaly without aqueductal stenosis: a case report. *Neurol Clin Neurosci* 6(2): 42-44, 2018
- 20) Sekijima Y, Ueda M, Koike H, Misawa S, Ishii T, Ando Y. Diagnosis and management of transthyretin familial amyloid polyneuropathy in Japan: red-flag symptom clusters and treatment algorithm. *Orphanet J Rare Dis* 13(1): 6, 2018
- 21) Sato T, Terasawa Y, Higa H, Matsuno H, Arai A, Omoto S, Mitsumura H, Toyoda C, Koike H, Iguchi Y. Nerve ultrasound, electrophysiological, and clinical changes in treatment-naïve chronic inflammatory demyelinating polyneuropathy: a case report. *J Clin Neurophysiol* 36(1): 82-84, 2019
- 22) Watanabe E, Fujita T, Shimono M, Koike H, Yasumoto S, Hirose S. Recurrent autonomic and sensory neuropathy in a patient with anti-ganglionic acetylcholine receptor antibodies. *eNeurologicalSci* 12: 36-38, 2018.
- 23) 小池春樹: 多発ニューロパチー. In: 福井 次矢, 高木 誠, 小室一成, editor. 今日の治療指針 2018 年版, 医学書院, 東京, 954-955, 2018.
- 24) 小池春樹: 血管炎性ニューロパチー. In: 水澤英洋, 山口修平, 園生雅弘, editor. 神経疾患最新の治療 2018-2020, 南江堂, 東京, 257-258, 2018.
- 25) 小池春樹: 慢性炎症性脱髄性多発ニューロパチーに対する免疫グロブリン維持療法. In: 鈴木則宏, 荒木信夫, 宇川義一, 桑原 聡, 塩川芳昭, editor. Annual Review 神経 2018, 中外医学社, 東京, 257-262, 2018.
- 26) 小池春樹: ジカウイルス感染症とギラン・バレー症候群. In: 鈴木則宏, 荒木信夫, 宇川義一, 桑原 聡, 塩川芳昭, editor. Annual Review 神経 2019, 中外医学社, 東京, 256-262, 2019.
- 27) 小池春樹: ビタミンB1ニューロパチーはどのような患者で疑いますか? どのように治療しますか? . In: 神田隆, editor. 末梢神経障害 (神経内科 Clinical Questions & Pearls), 中外医学社, 東京, 226-230, 2018.
- 28) 小池春樹: 体幹部のニューロパチー. *脊椎脊髄ジャーナル* 32(1): 27-32, 2019.
- 29) 小池春樹: ジカウイルスとギラン・バレー症候群. *BRAIN and NERVE* 70(2): 113-120, 2018.
- 30) 小池春樹: トランスサイレチン型家族性アミロイドポリニューロパチー (TTR-FAP); 診断と新規治療法. *循環器内科* 84(4): 462-468, 2018.
- 31) 小池春樹: ニューロパチー. *産科と婦人科* 85(10): 1177-1181, 2018.
- 32) 小池春樹: 自己免疫性自律神経障害. *CLINICAL NEUROSCIENCE* 36(9): 1042-1045, 2018.
- 33) 小池春樹: 急性自律神経性感覚性ニューロパチー. *自律神経* 55(2): 116-119, 2018.
- 34) 中村友彦, 小池春樹, 勝野雅央: ポリグルタミン病における末梢神経障害(SBMAとSCA3). *神経内科* 89(5): 473-480, 2018.
- 島崎千尋
- 1) Shimazaki C, Hata H, Iida S, Ueda M, Katoh N, Sekijima Y, Ikeda S, Yazaki M, Fukushima W, Ando Y: Nationwide Survey of 741 Patients with Systemic Amyloid Light-chain Amyloidosis in Japan. *Intern Med* 57: 181-187, 2018.
- 2) Shintani Y, Okada A, Morita Y, Hamatani Y, Amano M, Takahama H, Amaki M, Hasegawa T, Ohta-Ogo K, Kanzaki H, Ishibashi-Ueda H, Yasuda S, Shimazaki C, Yoshinaga T, Yazaki M, Sekijima Y, Izumi C: Monitoring treatment response to tafamidis by serial native T1 and extracellular volume in transthyretin amyloid cardiomyopathy. *ESC Heart Fail* 6: 232-236, 2019.
- 飯田真介
- 1) Iida S, Wakabayashi M, Tsukasaki K, Miyamoto K,

- Maruyama D, Yamamoto K, Takatsuka Y, Kusumoto S, Kuroda J, Ando K, Kikukawa Y, Masaki Y, Kobayashi M, Hanamura I, Asai H, Nagai H, Shimada K, Tsukamoto N, Inoue Y, Tobinai K: Bortezomib plus dexamethasone versus thalidomide plus dexamethasone for relapsed or refractory multiple myeloma. *Cancer Sci* 109(5): 1552-1561, 2018.
- 2) Yoshida T, Ri M, Kinoshita S, Narita T, Totani H, Ashour R, Ito A, Kusumoto S, Ishida T, Komatsu H, Iida S: Low expression of neural adhesion molecule, CD56, is associated with poor efficacy of bortezomib plus dexamethasone therapy in multiple myeloma. *PLoS One* 13(5): e0196780, 2018.
- 3) Kinoshita S, Ri M, Kanamori T, Aoki S, Yoshida T, Narita T, Totani H, Ito A, Kusumoto S, Ishida T, Komatsu H, Iida S: Potent antitumor effect of combination therapy with sub-optimal doses of Akt inhibitors and pomalidomide plus dexamethasone in multiple myeloma. *Oncol Lett* 15(6): 9450-9456, 2018.
- 植田光晴**
- 1) Endo Y, Hasegawa K, Nomura R, Arishima H, Kikuta KI, Yamashita T, Inoue Y, Ueda M, Ando Y, Wilson MR, Hamano T, Nakamoto Y, Naiki H: Apolipoprotein E and clusterin inhibit the early phase of amyloid- β aggregation in an in vitro model of cerebral amyloid angiopathy. *Acta Neuropathol Commun* 7(1): 12, 2019.
- 2) Nakamura M, Misumi Y, Nomura T, Oka W, Isoguchi A, Kanenawa K, Masuda T, Yamashita T, Inoue Y, Ando Y, Ueda M: Extreme Adhesion Activity of Amyloid Fibrils Induces Subcutaneous Insulin Resistance. *Diabetes* 68(3): 609-616, 2019.
- 3) Tasaki M, Ueda M, Hoshii Y, Mizukami M, Matsumoto S, Nakamura M, Yamashita T, Ueda A, Misumi Y, Masuda T, Inoue Y, Torikai T, Nomura T, Tsuda Y, Kanenawa K, Isoguchi A, Okada M, Matsui H, Obayashi K, Ando Y: A novel age-related venous amyloidosis derived from EGF-containing fibulin-like extracellular matrix protein 1. *J Pathol* 2018 in press.
- 4) Tsuda Y, Yamanaka K, Toyoshima R, Ueda M, Masuda T, Misumi Y, Ogura T, Ando Y: Development of transgenic *Caenorhabditis elegans* expressing human transthyretin as a model for drug screening. *Sci Rep* 8(1): 17884, 2018.
- 5) Ueda M, Yamashita T, Misumi Y, Masuda T, Ando Y: Origin of sporadic late-onset hereditary ATTR Val30Met amyloidosis in Japan. *Amyloid* 25(3): 143-147, 2018.
- 6) Masuda T, Ueda M, Kitajima M, Morita K, Misumi Y, Yamashita T, Obayashi K, Yamashita Y, Ando Y: Teaching NeuroImages: Morphology of lumbosacral dorsal root ganglia and plexus in hereditary transthyretin amyloidosis. *Neurology* 91(19): e1834-e1835, 2018.
- 7) Hirakawa K, Takashio S, Marume K, Yamamoto M, Hanatani S, Yamamoto E, Sakamoto K, Izumiya Y, Kaikita K, Oda S, Utsunomiya D, Shiraishi S, Ueda M, Yamashita T, Yamashita Y, Ando Y, Tsujita K: Non-Val30Met mutation, septal hypertrophy, and cardiac denervation in patients with mutant transthyretin amyloidosis. *ESC Heart Fail* 6(1): 122-130, 2018.
- 8) Okuda Y, Yamada T, Ueda M, Ando Y: First Nationwide Survey of 199 Patients with Amyloid A Amyloidosis in Japan. *Intern Med* 57(23): 3351-3355, 2018.
- 9) Ikeda T, Masuda T, Ueda M, Yamashita T, Misumi Y, Shinriki S, Ando Y: Unwanted road to anaemia in transthyretin familial amyloid polyneuropathy may continue irrespective of tafamidis treatment. *Ann Clin Biochem* 55(5): 571-575, 2018.
- 10) Nishi S, Hoshino J, Yamamoto S, Goto S, Fujii H, Ubara Y, Motomiya Y, Morita H, Takaichi K, Yamagata K, Shigematsu T, Ueda M, Ando Y: Multicentre cross-sectional study for bone-articular lesions associated with dialysis related amyloidosis in Japan. *Nephrology (Carlton)* 23(7): 640-645, 2018.
- 11) 山下太郎, 植田光晴, 安東由喜雄: 手根管症候群に潜む疾患の鑑別と治療 TTR-FAP: トランスサイレチン型家族性アミロイドポリニューロパチー. *末梢神経* 29(2): 224-231, 2018.
- 12) 植田光晴, 安東由喜雄: 遺伝性ニューロパチー— 家族性アミロイドポリニューロパチー. *Clinical Neuroscience* 36(9): 1075-1079, 2018.
- 13) 植田光晴, 三隅洋平, 増田曜章, 津田幸元, 井

上泰輝, 野村隼也, 山下太郎, 安東由喜雄: トランスサイレチンフラグメントのアミロイド形成および細胞毒性の解析. *末梢神経* 29(1): 42-49, 2018.

大橋健一

- 1) Iwadate D, Hasegawa E, Hoshino J, Hayami N, Sumida K, Yamanouchi M, Sekine A, Kawada M, Hiramatsu R, Suwabe T, Sawa N, Yuasa M, Wake A, Fujii T, Ohashi K, Takaichi K, Ubara Y.: The Long-term Outcomes after VAD plus SCT Therapy in a Patient with AL Amyloidosis and Severe Factor X Deficiency. *Intern Med.* ;57(5):701-706, 2018.
- 2) Haku S, Wakui H, Azushima K, Haruhara K, Kinguchi S, Ohki K, Uneda K, Kobayashi R, Matsuda M, Yamaji T, Yamada T, Minegishi S, Ishigami T, Yamashita A, Ohashi K, Tamura K. Early Enhanced Leucine-Rich α -2-Glycoprotein-1 Expression in Glomerular Endothelial Cells of Type 2 Diabetic Nephropathy Model Mice. *Biomed Res Int* 2018:2817045.
- 3) Yabuuchi J, Hoshino J, Mizuno H, Ozawa Y, Sekine A, Kawada M, Sumida K, Hiramatsu R, Hayami N, Yamanouchi M, Hasegawa E, Suwabe T, Sawa N, Fujii T, Ohashi K, Takaichi K, Ubara Y.: Immunoglobulin G subclass 3 in ISN/RPL lupus nephritis classification. *Clin Nephrol.* 91(1):32-39. 2019
- 4) Takada D, Hoshino J, Fujii T, Usui J, Fujii T, Ohashi K, Takaichi K, Suzuki S, Yamagata K, Ubara Y.: Association between renal outcome and the number of steroid pulse therapies after tonsillectomy in patients with IgA nephropathy. *Clin Exp Nephrol.* 23(3):335-341, 2019.
- 5) Hasegawa J, Hoshino J, Sekine A, Hayami N, Suwabe T, Sumida K, Mise K, Ueno T, Yamanouchi M, Hazue R, Sawa N, Ohashi K, Fujii T, Takaichi K, Ubara Y.: Clinical and histological features of antineutrophil cytoplasmic antibody-associated vasculitis related to antithyroid drugs. *Clin Nephrol.* 89(6):438-444, 2018
- 6) Hoshino J, Furuichi K, Yamanouchi M, Mise K, Sekine A, Kawada M, Sumida K, Hiramatsu R,

Hasegawa E, Hayami N, Suwabe T, Sawa N, Hara S, Fujii T, Ohashi K, Kitagawa K, Toyama T, Shimizu M, Takaichi K, Ubara Y, Wada T. A new pathological scoring system by the Japanese classification to predict renal outcome in diabetic nephropathy. *PLoS One.* 13(2): e0190923, 2018

- 7) Yamanouchi M, Hoshino J, Ubara Y, Takaichi K, Kinowaki K, Fujii T, Ohashi K, Mise K, Toyama T, Hara A, Kitagawa K, Shimizu M, Furuichi K, Wada T. Value of adding the renal pathological score to the kidney failure risk equation in advanced diabetic nephropathy. *PLoS One.* 13(1): e0190930, 2018
- 8) 大橋健一: 免疫染色によるアミロイドーシス病型診断、現状と将来の取り組み. *病理と臨床* 36(7): 710-712, 2018.

小野賢二郎

- 1) Shiromaru-Sugimoto A, Murakami H, Futamura A, Honma M, Kuroda T, Kawamura M, Ono K: The subjective perception of past, present, and future time in patients with Alzheimer's disease: a qualitative study. *Neuropsychiatr Dis Treat* 14: 3185-3192, 2018.
- 2) Ono K: Alzheimer's disease as oligomeropathy. *Neurochem Int* 119: 57-70, 2018.
- 3) Watanabe-Nakayama T, Ono K: High-speed atomic force microscopy of individual amyloidogenic protein assemblies. *Methods Mol Biol* 1814: 201-212, 2018.
- 4) Shozawa H, Oguchi T, Tsuji M, Yano S, Kiuchi Y, Ono K: Supratherapeutic concentrations of cilostazol inhibits β -amyloid oligomerization in vitro. *Neurosci Lett* 677: 19-25, 2018.
- 5) 二村 明德, 小野 賢二郎: 認知症関連疾患. *月刊レジデント* 11(10): 82-89, 2018.
- 6) 小野 賢二郎, 山田 正仁: アミロイド仮説は否定されるのか. *神経治療学* 35(3): 182-186, 2018.

関島良樹

- 1) Sekijima Y, Yazaki M, Ueda M, Koike H, Yamada M, Ando Y: First nationwide survey on systemic wild-type ATTR amyloidosis in Japan. *Amyloid* 25(1): 8-10, 2018.
- 2) Sekijima Y, Ueda M, Koike H, Misawa S, Ishii T, Ando Y: Diagnosis and management of transthyretin

- familial amyloid polyneuropathy in Japan: red-flag symptom clusters and treatment algorithm. *Orphanet J Rare Dis* 13(6), 2018.
- 3) Sekijima Y: Hereditary Transthyretin Amyloidosis. 2001 Nov 5 [Updated 2018 Dec 20]. In: Adam MP, Ardinger HH, Pagon RA, et al., editors. *GeneReviews*® [Internet]. Seattle (WA): University of Washington, Seattle; 1993-2018. Available from: <https://www.ncbi.nlm.nih.gov/books/NBK1194/>
- 4) Yazaki M, Yoshinaga T, Sekijima Y, Kametani F, Okumura N. Hereditary Fibrinogen A α -Chain Amyloidosis in Asia: Clinical and Molecular Characteristics. *Int J Mol Sci* 19(1) pii: E320, 2018.
- 5) Kishida D, Yazaki M, Nakamura A, Nomura F, Kondo T, Uehara T, Ikusaka M, Ohya A, Watanabe N, Endo R, Kawai S, Shimojima Y, Sekijima Y: One novel and two uncommon MEFV mutations in Japanese patients with familial Mediterranean fever: a clinicogenetic study. *Rheumatol Int* 38(1): 105-110, 2018
- 6) Ezawa N, Katoh N, Oguchi K, Yoshinaga T, Yazaki M, Sekijima Y. Visualization of multiple organ amyloid involvement in systemic amyloidosis using 11C-PiB PET imaging. *Eur J Nucl Med Mol Imaging*. 45 (3): 452-461, 2018.
- 7) Shimazaki C, Hata H, Iida S, Ueda M, Katoh N, Sekijima Y, Ikeda S, Yazaki M, Fukushima W, Ando Y: Nationwide Survey of 741 Patients with Systemic Amyloid Light-chain Amyloidosis in Japan. *Intern Med* 57(2): 181-187, 2018.
- 8) Adams D, Gonzalez-Duarte A, O'Riordan WD, Yang CC, Ueda M, Kristen AV, Tournev I, Schmidt HH, Coelho T, Berk JL, Lin KP, Vita G, Attarian S, Planté-Bordeneuve V, Mezei MM, Campistol JM, Buades J, Brannagan TH 3rd, Kim BJ, Oh J, Parman Y, Sekijima Y, Hawkins PN, Solomon SD, Polydefkis M, Dyck PJ, Gandhi PJ, Goyal S, Chen J, Strahs AL, Nochur SV, Sweetser MT, Garg PP, Vaishnav AK, Gollob JA, Suhr OB: Patisiran, an RNAi therapeutic, for hereditary transthyretin amyloidosis. *N Engl J Med* 379(1): 11-21, 2018
- 9) Ishida M, Yamada Y, Mizutani T, Hara A, Sekijima Y, Ako J, Inomata T: Cardiac Amyloidosis Mimicking Dilated Cardiomyopathy But Showing Relative Apical Sparing of Longitudinal Strain. *Circulation J* 82(12): 3102-3103, 2018.
- 10) Benson MD, Buxbaum JN, Eisenberg DS, Merlini G, Saraiva MJM, Sekijima Y, Sipe JD, Westermark P. Amyloid nomenclature 2018: recommendations by the International Society of Amyloidosis (ISA) nomenclature committee. *Amyloid* 25(4): 215-219. 2018.
- 11) Shintani Y, Okada A, Morita Y, Hamatani Y, Amano M, Takahama H, Amaki M, Hasegawa T, Ohta-Ogo K, Kanzaki H, Ishibashi-Ueda H, Yasuda S, Shimazaki C, Yoshinaga T, Yazaki M, Sekijima Y, Izumi C: Monitoring treatment response to tafamidis by serial native T1 and extracellular volume in transthyretin amyloid cardiomyopathy. *ESC Heart Fail* 6(1): 232-236, 2019.
- 12) Kozuka A, Koyama J, Sekijima Y, Ikeda U: Quantitative analysis of endocardial and epicardial left ventricular myocardial deformation in patients with cardiac amyloidosis. *Shinshu Med J* 67(1): 49-60, 2019.
- 13) Miyake Z, Nakamagoe K, Ezawa N, Yoshinaga T, Hashimoto R, Sato T, Sekijima Y, Tamaoka A: Late-onset transthyretin (TTR)-familial amyloid polyneuropathy (FAP) with a long disease duration from non-endemic areas in Japan. *Intern Med* 58(5), 713-718, 2019
- 14) Buxbaum JN, Brannagan T 3rd, Buades-Reinés J, Cisneros E, Conceicao I, Kyriakides T, Merlini G, Obici L, Plante-Bordeneuve V, Rousseau A, Sekijima Y, Imai A, Waddington Cruz M, Yamada M: Transthyretin deposition in the eye in the era of effective therapy for hereditary ATTRV30M amyloidosis. *Amyloid* [Epub ahead of print]
- 15) Ohashi N, Kodaira M, Morita H, Sekijima Y: Electrophysiological demyelinating features in hereditary ATTR amyloidosis. *Amyloid* [Epub ahead of print]
- 16) Koyama J, Minamisawa M, Sekijima Y, Kuwahara K, Katsuyama T, Maruyama K: Role of echocardiography in assessing cardiac amyloidoses: a systematic review. *Echocardiogr* [Epub ahead of print]

- 17) 関島良樹：遺伝性 ATTR (ATTRm) アミロイドーシス, 水澤英洋, 山口修平, 園生雅弘 編集：神経疾患最新の治療 2018-2200, pp267-269, 南江堂, 東京, 2018.
- 18) 関島良樹：FAP のケースアプローチ . 神田隆 編集：神経内科 Clinical Question & Pearls 末梢神経障害, pp200-203, 中外医学社, 東京, 2018
- 19) 関島良樹：遺伝性 ATTR アミロイドーシス . Clinical Neuroscience 36(2): 198-199, 2018.
- 20) 関島良樹：ATTR 型 CAA の臨床的意義 . 神経内科 88(3) : 300-304, 2018
- 21) 関島良樹：siRNA を用いた遺伝子治療の現状 . 最新医学 73(6) : 775-780, 2018.
- 22) 関島良樹：トランスサイレチン型家族性アミロイドポリニューロパチー . 神経治療学 35(1) : 47-50, 2018.
- 23) 関島良樹：家族性アミロイドポリニューロパチー (遺伝性 ATTR アミロイドーシス). 遺伝子医学 8(1) : 123-127, 2018
- 24) 関島良樹：遺伝性 ATTR アミロイドーシスに対する核酸医薬品開発 . 神経内科 89(5) : 536-540, 2018.
- 25) 加藤修明, 関島良樹：AL アミロイドーシス . Clinical Neuroscience 36(9) : 1061-1064 , 2018.
- S, Kitakata H, Hiraide T, Fukuda K, Sano M. IL (Interleukin)-10-STAT3-Galectin-3 Axis Is Essential for Osteopontin-Producing Reparative Macrophage Polarization After Myocardial Infarction. Circulation. 2018;138(18):2021-2035.
- 4) Ohashi M, Kohno T, Kohsaka S, Fukuoka R, Hayashida K, Yuasa S, Sano M, Takatsuki S, Fukuda K. Excessive Daytime Sleepiness Is Associated With Depression Scores, But Not With Sleep-Disordered Breathing in Patients With Cardiovascular Diseases. Circ J. 2018;82(8):2175-2183.
- 5) Isoda K, Akita K, Kitamura K, Sato-Okabayashi Y, Kadoguchi T, Isobe S, Ohtomo F, Sano M, Shimada K, Iwakura Y, Daida H. Inhibition of interleukin-1 suppresses angiotensin II-induced aortic inflammation and aneurysm formation. Int J Cardiol. 2018; 270: 221-227.
- 6) Umbarawan Y, Syamsunarno MRAA, Koitabashi N, Yamaguchi A, Hanaoka H, Hishiki T, Nagahata-Naito Y, Obinata H, Sano M, Sunaga H, Matsui H, Tsushima Y, Suematsu M, Kurabayashi M, Iso T. Glucose is preferentially utilized for biomass synthesis in pressure-overloaded hearts: evidence from fatty acid-binding protein-4 and -5 knockout mice. Cardiovasc Res. 2018;114(8):1132-1144.
- 7) Sano M, Suzuki M, Homma K, Hayashida K, Tamura T, Matsuoka T, Katsumata Y, Onuki S, Sasaki J. Promising novel therapy with hydrogen gas for emergency and critical care medicine. Acute Med Surg. 2018;5(2):113-118.
- 佐野元昭
- 1) Yamamoto T, Endo J, Kataoka M, Matsuhashi T, Katsumata Y, Shirakawa K, Yoshida N, Isobe S, Moriyama H, Goto S, Yamashita K, Nakanishi H, Shimanaka Y, Kono N, Shinmura K, Arai H, Fukuda K, Sano M. Decrease in membrane phospholipids unsaturation correlates with myocardial diastolic dysfunction. PLoS One. 2018;13(12): e0208396.
- 2) Umbarawan Y, Syamsunarno MRAA, Koitabashi N, Obinata H, Yamaguchi A, Hanaoka H, Hishiki T, Hayakawa N, Sano M, Sunaga H, Matsui H, Tsushima Y, Suematsu M, Kurabayashi M, Iso T. Myocardial fatty acid uptake through CD36 is indispensable for sufficient bioenergetic metabolism to prevent progression of pressure overload-induced heart failure. Sci Rep. 2018;8(1):12035.
- 3) Shirakawa K, Endo J, Kataoka M, Katsumata Y, Yoshida N, Yamamoto T, Isobe S, Moriyama H, Goto
- 田原宣広
- 1) Tahara A, Tahara N, Maeda-Ogata S, Bekki M, Sugiyama Y, Sun J, Honda A, Igata S, Fukumoto Y: Clinical hallmarks making diagnosis of infective endocarditis. J Nucl Cardiol doi: 10.1007/s12350-019-01686-z, 2019.
- 2) Ito S, Tahara N, Hirakata S, Kaieda S, Tahara A, Maeda-Ogata S, Bekki M, Sugiyama Y, Honda A, Igata S, Kuromatsu R, Nakashima O, Fukumoto Y: Signal intensity of superb micro-vascular imaging associates with the activity of vascular inflammation in

- Takayasu arteritis. *J Nucl Cardiol* doi: 10.1007/s12350-019-01665-4, 2019.
- 3) Tahara N, Kojima R, Yoshida R, Bekki M, Sugiyama Y, Tahara A, Maeda S, Honda A, Igata S, Nakamura T, Sun J, Matsui T, Fukumoto Y, Matsui T, Yamagishi SI: Serum levels of protein-bound methylglyoxal-derived hydroimidazolone-1 are independently correlated with asymmetric dimethylarginine. *Rejuvenation Res* doi: 10.1089/rej.2018.2152, 2019.
- 4) Igata S, Tahara N, Sugiyama Y, Bekki M, Kumanomido J, Tahara A, Honda A, Maeda S, Nashiki K, Nakamura T, Sun J, Abe T, Fukumoto Y: Utility of the amplitude of RV1+SV5/6 in assessment of pulmonary hypertension. *PLoS One* 13(11): e0206856, 2018.
- 5) Saku K, Tahara N, Takaseya T, Shintani Y, Takagi K, Shojima T, Kurata S, Fujimoto K, Abe T, Fukumoto Y, Tanaka H: Multimodal imaging of cardiac-calcified amorphous tumor. *J Nucl Cardiol* doi: 10.1007/s12350-018-01510-0, 2018.
- 6) Ishibashi K, Eishi Y, Tahara N, Asakura M, Sakamoto N, Nakamura K, Takaya Y, Nakamura T, Yazaki Y, Yamaguchi T, Asakura K, Anzai T, Noguchi T, Yasuda S, Terasaki F, Hamasaki T, Kusano K: Japanese Antibacterial Drug Management for Cardiac Sarcoidosis (J-ACNES): A multicenter, open-label, randomized, controlled study. *J Arrhythm* 34(5): 520-526, 2018.
- 7) Tahara N, Bekki M, Sugiyama Y, Tahara A, Fukumoto Y: Importance of extracardiac FDG uptake to diagnose cardiac sarcoidosis. *J Nucl Cardiol* doi: 10.1007/s12350-018-1425-2, 2018.
- 8) Imai S, Tahara N, Hiromatsu S, Fukumoto Y, Tanaka H: Endovascular repair for inflammatory abdominal aortic aneurysm. *Eur Heart J Cardiovasc Imaging* 19(10): 1191-1192, 2018.
- 9) Maeda S, Tahara N, Takase F, Bekki M, Tahara A, Honda A, Igata S, Sugiyama Y, Nakamura T, Sun J, Kurata S, Fujimoto K, Abe T, Fukumoto Y: Diagnostic performance of FDG-PET/CTA in native mitral valve endocarditis. *J Nucl Cardiol* 26(2): 681-683, 2019.
- 10) Bekki M, Tahara N, Tahara A, Igata S, Honda A, Sugiyama Y, Nakamura T, Sun J, Kumashiro Y, Matsui T, Fukumoto Y, Yamagishi S-I: Switching dipeptidyl peptidase-4 inhibitors to tofogliflozin, a selective inhibitor of sodium-glucose cotransporter 2 improves arterial stiffness evaluated by cardio-ankle vascular index in patients with type 2 diabetes: a pilot study. *Curr Vasc Pharmacol* doi: 10.2174/1570161116666180515154555, 2018.
- 11) Bekki M, Tahara N, Tahara A, Honda A, Igata S, Sugiyama Y, Nakamura T, Sun J, Kurata S, Fujimoto K, Abe T, Tanaka H, Suda K, Fukumoto Y: Anti-inflammatory effect of statin in coronary aneurysms late after Kawasaki disease. *J Nucl Cardiol* 26(2): 671-673, 2019.
- 12) Kaida H, Azuma K, Toh U, Kawahara A, Sadashima E, Hattori S, Akiba J, Tahara N, Rominger A, Ishii K, Murakami T, Ishibashi M: Correlations between dual-phase 18F-FDG uptake and clinicopathologic and biological markers of breast cancer. *Hell J Nucl Med* 21(1): 35-42, 2018.
- 13) Saku K, Shintani Y, Tahara N, Kikusaki S, Imai S, Shojima T, Takagi K, Kurata S, Fujimoto K, Abe T, Fukumoto Y, Tanaka H: Inflammatory reaction of a pericardial foreign body after cardiac surgery. *J Nucl Cardiol* 26(1): 328-329, 2019.
- 14) Saku K, Tahara N, Takagi K, Imai S, Takaseya T, Kurata S, Fujimoto K, Abe T, Fukumoto Y, Tanaka H: Inflammatory activity of degenerated Freestyle valve 17 years after ROSS procedure. *J Nucl Cardiol* 25(5): 1863-1864, 2018.
- 15) Yamaki T, de Haas HJ, Tahara N, Petrov A, Mohar D, Haider N, Zhou J, Tahara A, Takeishi Y, Boersma HH, Scarabelli T, Kini A, Strauss HW, Narula J: Cardioprotection by minocycline in a rabbit model of ischemia/reperfusion injury: Detection of cell death by in vivo ¹¹¹In-GSAO SPECT. *J Nucl Cardiol* 25(1): 94-100, 2018.
- 16) Nakamura T, Ogo T, Tahara N, Fukui S, Tsuji A, Ueda J, Fukumoto Y, Nakanishi N, Ogawa H, Yasuda S: Thalidomide for Hereditary Hemorrhagic Telangiectasia with Pulmonary Arterial Hypertension. *Circ J* 82(4): 1205-1207, 2018.
- 17) Iwanaga J, Watanabe K, Saga T, Tahara N, Tabira

Y, Sakuragi A, Kaji K, Takahashi K, Yamaki KI: Anatomical and Radiological Analyses of L-shaped Kidney with Vascular Anomalies. *Kurume Med J* 64(1.2): 21-24, 2018.

18) Nakamura T, Tahara N, Tahara A, Honda A, Igata S, Bekki M, Sugiyama Y, Sun J, Kumagai E, Kurata S, Fujimoto K, Abe T, Kato S, Tanaka H, Fukumoto Y: Right ventricular workload assessed by FDG-PET in a patient with residual VSD and infundibular pulmonary stenosis after repair of tetralogy of Fallot. *J Nucl Cardiol* 25(3): 1053-1055, 2018.

19) Nakamura T, Tahara N, Tahara A, Honda A, Bekki M, Sugiyama Y, Sun J, Kumagai E, Kurata S, Fujimoto K, Abe T, Igata S, Fukumoto Y: Myocardial metabolic improvement prior to electrocardiographic or volumetric changes of the right ventricle in pulmonary arterial hypertension. *J Nucl Cardiol* 25(1): 358-359, 2018.

2. 学会発表

内木宏延

1) 内木宏延: ヒトアミロイドーシス発症の分子機構. 第 107 回日本病理学会総会, 札幌, 6,21-23, 2018.

2) 内木宏延: 病型診断の重要性とアミロイドーシス調査研究班の取り組み (アミロイドーシスの診断法の発展を追う). 第 6 回日本アミロイドーシス研究会学術集会, 松本, 8,25, 2018.

3) 内木宏延: アミロイドーシス発症の分子機構と病型診断の重要性 (アミロイドーシス発症の原理に基づく予測と予防の新展開). 第 91 回日本生化学会大会, 京都, 9,24-26, 2018.

安東由喜雄

1) 安東由喜雄: 末梢神経疾患の診断と治療 ~ FAP の最新の話題を含めて ~. 第 59 回日本神経学会学術大会, 札幌, 5,23-26, 2018

2) 安東由喜雄: アミロイドーシスのすべて - 2017 年診療ガイドライン. 第 59 回日本神経学会学術大会, 札幌, 5,23-26, 2018.

3) 安東由喜雄: 見逃してはいけない日常診療に潜むアミロイドーシス ~Red-flag による TTR-FAP 鑑別診断~. 第 36 回日本神経治療学会学術集会,

東京, 11,23-25, 2018.

4) 安東由喜雄: アミロイドーシスが引き起こす様々なニューロパチーの最新の知見. 第 224 回日本神経学会九州地方会, 熊本, 12,22, 2018.

5) 安東由喜雄: 循環器症状を伴う末梢神経障害疾患 TTR-FAP を見逃さない. 第 83 回日本循環器学会学術集会 ファイアサイドセミナー, 横浜, 3.29, 2019

山田正仁

1) Sakai K, Ueda M, Fukushima W, Tamaoka A, Shoji M, Ando Y, Yamada M: Nationwide survey on cerebral amyloid angiopathy in Japan. The 6th International CAA Conference, Lille, September 6-8, 2018.

2) Sakai K, Asakawa M, Takahashi R, Ishida C, Nakamura R, Hamaguchi T, Ono K, Iwasa K, Yamada M: Coexistence of transthyretin- and A β -type cerebral amyloid angiopathy in a patient with hereditary transthyretin V30M amyloidosis. 19th International Congress of Neuropathology/4th Asian Congress of Neuropathology/ 59th Annual Meeting of the Japanese Society of Neuropathology/ 36th Annual Meeting of the Japan Society of Brain Tumor Pathology (ICN2018), Tokyo, September 23-27, 2018.

3) Hamaguchi T, Komatsu J, Sakai K, Aoki S, Ikeuchi T, Yamada M: Clinicopathological study of cerebral amyloid angiopathy-related cerebrovascular diseases in young adults about 3 decades after neurosurgeries in the early childhood. Asian Pacific Prion Symposium 2018 (APPS2018), Tokyo, October 4-5, 2018.

4) 坂井健二, 植田光晴, 玉岡 晃, 東海林幹夫, 安東由喜雄, 山田正仁: Nationwide survey on cerebral amyloid angiopathy in Japan. 第 59 回日本神経学会学術大会, 札幌, 5.23-26, 2018.

5) 坂井健二, 山田正仁: 脳アミロイドアンギオパチーと認知機能障害. 第 9 回日本脳血管・認知症学会総会 (VAS-COG Japan 2018), 別府, 8.4-5, 2018.

6) 濱口 毅, 小松潤史, 坂井健二, 山田正仁: 若年発症の脳アミロイドアンギオパチーの臨床病理学的検討. 第 6 回日本アミロイドーシス研究会学術集会, 松本, 8.25, 2018.

7) 植田光晴, 関島良樹, 三隅洋平, 増田曜章,

矢崎正英, 小池春樹, 山田正仁, 山下太郎,
安東由喜雄: 全国疫学調査を基にした家族性アミ
ロイドポリニューロパチーの実態解明. 第 29 回日
本末梢神経学会学術集会, 下関, 9.7-8, 2018.

8) Sakai K, Ueda M, Tamaoka A, Shoji M, Ando Y,
Yamada M: Nationwide survey on cerebral amyloid
angiopathy in Japan. 第 37 回日本認知症学会学術集
会, 札幌, 10.12-14, 2018.

9) 濱口 毅, 小松潤史, 坂井健二, 山田正仁: 幼少
期に脳外科手術を受け若年で発症した脳アミロ
イドアンギオパチーの 2 例. 第 23 回日本神経感染
症学会総会・学術集会, 東京, 10.19-20, 2018.

玉岡 晃

1) Kenji Sakai, Mitsuharu Ueda, Akira Tamaoka,
Mikio Shoji, Yukio Ando, Masahito Yamada:
Nationwide survey on cerebral amyloid angiopathy in
Japan, 59th Annual Meeting of the Japanese Society
of Neurology(Sapporo), May 24, 2018.

2) Yasushi Tomidokoro, Kazuhiro Ishii, Kazuhiro Irie,
Akira Tamaoka: Toxic Abeta conformer and tau in
CSF obtained from the cases of AD dementia, a
preliminary study, 59th Annual Meeting of the
Japanese Society of Neurology(Sapporo), May 25,
2018.

3) Fumiko Yamamoto, Kaori Taniguchi, Naomi
Mamada, Akira Tamaoka, Fuyuki Kametani,
Madepalli K. Lakshmana, Wataru Araki: Enhancement
of the autophagy-lysosomal pathway modulates the
process of beta-amyloid generation, 59th Annual
Meeting of the Japanese Society of
Neurology(Sapporo), May 26, 2018.

4) 玉岡晃: アルツハイマー病に対する治療の現状
と今後の展望, 第 59 回日本神経学会学術大会(札
幌), 5,24, 2018.

5) 細井崇弘, 石井一弘, 遠坂直希, 山口哲人, 岸
田 大, 関島良樹, 玉岡晃: 再発性髄膜炎をてい
した家族性地中海熱の 4 2 歳男性例. 第 2 2 6 回
日本神経学会関東・甲信越地方会(東京), 9,1,
2018.

6) 玉岡 晃: 認知症: 予防の現況と展望, 第 2 7
回日本認知症学会学術集会(札幌), 10.12, 2018.

7) 富所 康志, 石井 一弘, 入江 一浩, 玉岡 晃: 脳

脊髄液中の A β 毒性コンホマー量とタウの関連.
第 37 回日本認知症学会学術集会, 札幌, 10,12-14,
2018.

8) 玉岡 晃: 認知症の予防の現状と展望. 第 37 回
日本認知症学会学術集会, 札幌, 10,12, 2018.

9) 玉岡 晃: 改訂された新しい『認知症疾患診療
ガイドライン 2017』, 第 9 回関東脳神経外科認知
症研究会(東京), 11,10, 2018.

10) 玉岡 晃: 認知症: 診断と治療の最前戦~「診
療ガイドライン 2017」改訂のポイントを中心に.
平成 30 年度日本神経学会関東・甲信越地区生涯
教育して講演会(東京), 12,2, 2018.

東海林幹夫

1) 東海林幹夫, Alzheimer 病臨床研究の現状. 日
本安全性薬理研究会. 第 9 回学術年会, 一般公開
シンポジウム: アルツハイマー病のバイオマーカ
ーと治療標的の同定. 東京大学, 東京, 2,8, 2018.

2) 東海林幹夫, 共催シンポジウム 3 アミロイドは
どうしてたまるか?—アミロイド代謝とその治療
的介入 Alzheimer 病免疫療法の可能性 第 8 会認知
症予防学会, 日本教育会館 東京, 23, 9, 2018.

3) 内木 宏延: ヒトアミロイドーシス発症の分子
機構. 第 107 回日本病理学会総会, 札幌, 6,21-23,
2018.

4) Takeshi Kawarabayashi, Takumi Nakamura, Mie
Hirohata, Yusuke Seino, Mikio Shoji, Accumulation of
A β oligomers induces phosphorylated tau in synaptic
lipid rafts. Alzheimer's Association International
Conference (AAIC) 2018 Chicago, July 23, 2018

5) Takumi Nakamura, Takeshi Kawarabayashi,
Yusuke Seino, Mie Hirohata, Mikio Shoji, APOE ϵ 4
suppresses age-dependent increase in plasma A β 42
levels. Neuroscience 2018, the Society for
Neuroscience, 48th Annual Meeting, San Diego,
November 6, 2018

6) Yusuke Seino, Takumi Nakamura, Mie Hirohata,
Takeshi Kawarabayashi, Mikio Shoji, Cerebrospinal
fluid and blood biomarkers in neurological diseases
第 37 回日本認知症学会学術集会 札幌 12,10,
2018.

7) 瓦林毅, 成田早希子, 佐藤薫, 中村琢洋, 廣畑
美枝, 清野祐輔, 中畑直子, 東海林幹夫. 組み換

えダイズ蛋白によるアルツハイマー病経口免疫療法の開発．第 37 回日本認知症学会学術集会．札幌, 13, 10, 2018.

高市憲明

1) 渡邊 駿, 早見 典子, 小黒 昌彦, 大島 洋一, 井熊 大輔, 関根 章成, 川田 真宏, 平松 里佳, 住田 圭一, 長谷川 詠子, 山内 真之, 諏訪部 達也, 星野 純一, 澤 直樹, 石井 保夫, 高市 憲明, 大橋 健一, 藤井 丈士, 矢崎 正英, 乳原 善文 : 2 度の腎生検で診断された AH アミロイドーシスの 10 年の経過．第 63 回日本透析医学会学術集会．神戸, 6/29-3, 2018.

山田俊幸

1) Yamada T, Okuda Y: Features and changes in AA amyloidosis in Japan. XVIth International Symposium on Amyloidosis, 熊本, 3,28, 2018.
 2) Tanaka M, Kawakami T, Yamada T, Mukai T: Effect of carboxyl-terminal truncation on amyloid fibril formation of human serum amyloid. XVIth International Symposium on Amyloidosis, 熊本, 3,29, 2018.
 3) Okuda Y, Yamada T, Ueda M, Ando Y: Nationwide survey of 199 patients with reactive AA amyloidosis in Japan. XVIth International Symposium on Amyloidosis, 熊本, 3,26, 2018.
 4) Kawaguchi K, Yamada T: Carbamylation of human serum amyloid A. XVIth International Symposium on Amyloidosis, 熊本, 3,26, 2018.
 5) 奥田恭章, 山田俊幸: AA アミロイドーシスに関する初めての全国疫学調査．結果と特徴．第 62 回日本リウマチ学会学術集会, 東京, 4, 27, 2018.
 6) 川口公平, 佐藤純司, 山田俊幸: ヒト末梢血単核球との反応により生じたヒト rSAA 断片の解析．第 6 回日本アミロイドーシス研究会学術集会, 松本, 8,25, 2018.

重松 隆

1) Toru Mima, Yuri Nakashima, Masaki Ohya, Mitsuru Yashiro, Kazuki Kawakami, Shigeo Negi, Takashi Shigematsu: FGF23-Klotho axis involving B cell immune response and possibly causing for ESRD

patients as immunocompromised hosts. ISN Frontiers Meetings 2018. 2.22-25, Tokyo, Japan.

2) Masaki Ohya, Kazuki Kawakami, Tomohiro Sonou, Mitsuru Yashiro, Toru Mima, Shigeo Negi, Takashi Shigematsu. Wakayama Medical University, Wakayama, Japan. : 1,25-Dihydroxyvitamin D Stimulation Increases FGF23 Expression in Calcified Vessels Under High Phosphate Condition. ASN Kidney Week 2018.10.23-28, San Diego, USA
 3) Masaki Ohya, Tomohiro Sonou, Takashi Shigematsu, Kouji Okuda, Yuko Iwashita, Mitsuru Yashiro, Tomohiro Shoshihara, Kazunori Kawakami, Yuri Nakashima, Toru Mima, Shigeo Negi: Magnesium prevents phosphate-induced vascular medial calcification via TRPM7 and Pit-1 in an aortic tissue culture ex-vivo model. ISN Frontiers Meetings 2018. 2.22-25, Tokyo, Japan.

4) 重松隆・根木茂雄・大矢昌樹: 本邦における ESRD の現状と課題.第 48 回日本腎臓学会西部学術大会,徳島,9.28-29,2018
 5) 重松隆・大矢昌樹: CKD 患者における腎性貧血と CKD-MBD. 第 8 回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会,仙台,3.17-18,2018.
 6) 大矢昌樹・河上和紀・重松隆: FGF23 とビタミン D ~ 石灰化血管におけるビタミン D 刺激による FGF23 産生 ~ .第 63 回日本透析医学会学術集会・総会, 神戸, 6.29-7.1, 2018

奥田恭章

1) Y Okuda, T Yamada, M Ueda, Y Ando. Nationwide survey of 199 reactive amyloid A amyloidosis in Japan. The XVIth International Symposium on Amyloidosis. 2018.3.26-29 Kumamoto, Japan.
 2) 奥田恭章, 山田俊幸. AA アミロイドーシスに関する初めての全国疫学調査-結果と特徴- 第 62 回日本リウマチ学会総会・学術集会. 2018.4.26-28 東京
 3) 奥田恭章: シンポジウム 2: AA アミロイドーシスにおける新既治療法の発展と現況. 第 6 回日本アミロイドーシス研究会・学術集会 2018.8.25 松本市
 4) T Yamada, Y Okuda. Futures and changes in AA amyloidosis in Japan. The XVIth International

Symposium on Amyloidosis. 2018.3.26-29 Kumamoto, Japan

5) S Nishi, Y Okuda, H Fujii, S Goto, K Kono, M Yoshikawa, S Watanabe, M Ueda, Y Ando.

Intraventricular septum thickness (IVST) independently increases according to the decline of eGFR in AA amyloidosis. The XVIth International Symposium on Amyloidosis. 2018.3.26-29 Kumamoto, Japan

畑 裕之

1) 再発難治多発性骨髄腫 12 例におけるエロツズマブ、レブラミド、デキサメサゾン療法の治療成績: 奥野 豊, 河野 和, 上野 志貴子, 畑 裕之, 松岡 雅雄。第 80 回日本血液学会学術集会 2018 年 10 月 大阪

2) 骨髄形質細胞と骨髄腫細胞はケモカインレセプター CCR10 を高発現する: 河野 和, 松下 豊, 笹野 孝行, 西村 直, 畑 裕之, 松岡 雅雄。第 80 回日本血液学会学術集会 2018 年 10 月 大阪

3) t(11;14)を有する形質細胞性疾患に合併した 2 例の後天性 Fanconi 症候群の報告: 古田 梨愛, 河野 和, 立津 央, 井上 秀樹, 菊川 佳敬, 奥野 豊, 畑 裕之, 松岡 雅雄。第 80 回日本血液学会学術集会 2018 年 10 月 大阪。

小池春樹

1) Koike H, Pathology and pathogenetic aspect: classic model of AIDP vs. paranodal lesion of CIDP, 16th Asian Oceanian Congress of Neurology, Seoul November 8-11, 2018.

2) Koike H, Nutritional neuropathy, 16th Asian Oceanian Congress of Neurology, Seoul November 8-11, 2018.

3) Koike H, Pathology of familial amyloid polyneuropathy, 19th International congress of Neuropathology, Japan, Tokyo, September 22-25, 2018.

4) Koike H, Diagnosis and treatment of peripheral neuropathies, The XVIth International Symposium on Amyloidosis, Japan, Kumamoto March 26-29, 2018.

5) Koike H, Nishi R, Ikeda S, Kawagashira Y, Iijima

M, Katsuno M, Sobue G, Ultrastructural mechanisms of macrophage-induced demyelination in chronic inflammatory demyelinating polyneuropathy: an observation on longitudinal sections, 9th International congress of Neuropathology, Japan, Tokyo, September 23-25, 2018.

6) Koike H, Nishi R, Ikeda S, Kawagashira Y, Iijima M, Misumi Y, Ando Y, Ikeda SI, Katsuno M, Sobue G, Vasculopathy in hereditary transthyretin amyloidosis: an electron microscopic study, 19th International congress of Neuropathology, Japan, Tokyo, September 23-27, 2018.

7) Nishi R, Koike H, Ikeda S, Ken Ohyama, Kawagashira Y, Iijima M, Katsuno M, Sobue G, Clinicopathological features of eosinophilic granulomatosis with polyangiitis with and without anti-neutrophil cytoplasmic antibodies, 2018 Peripheral Nerve Society Annual Meeting, USA, Baltimore, July 22-25, 2018.

8) Koike H, Nishi R, Ikeda S, Kawagashira Y, Iijima M, Katsuno M, Sobue G, Evolution of amyloid fibrils in transthyretin familial amyloid polyneuropathy: an ultrastructural study, 2018 Peripheral Nerve Society Annual Meeting, USA, Baltimore, July 22-25, 2018.

9) Koike H, Nishi R, Ikeda S, Kawagashira Y, Iijima M, Katsuno M, Sobue G, Ultrastructural mechanisms of macrophage-induced demyelination in chronic inflammatory demyelinating polyneuropathy, 2018 Peripheral Nerve Society Annual Meeting, USA, Baltimore, July 22-25, 2018.

10) Koike H, Nishi R, Ikeda S, Kawagashira Y, Iijima M, Katsuno.M, Sobue G, Evolution of amyloid fibrils in hereditary ATTR amyloidosis:an ultrastructural study, The XVIth International Symposium on Amyloidosis, Japan, Kumamoto March 26-29, 2018.

11) Koike H, Nishi R, Ikeda S, Kawagashira Y, Iijima M, Yasuda T, Mukai E, Date Y, Shiomi K, Nakazato M, Katsuno.M, Sobue G, Common clinicopathological features in late-onset hereditary ATTR amyloidosis (Ala97Gly, Val94Gly, and Val30Met), The XVIth International Symposium on Amyloidosis, Japan, Kumamoto March 26-29, 2018.

12) Koike H, Nakamura T, Nishi R, Ikeda S,

Kawagashira Y, Iijima M, Katsuno.M, Sobue G, Cardiac and peripheral vasomotor autonomic functions in hereditary ATTR amyloidosis with non-Val30Met mutation, The XVIth International Symposium on Amyloidosis, Japan, Kumamoto March 26-29, 2018.

13) Nakamura T, Koike H, Nishi R, Ikeda S, Kawagashira Y, Iijima M, Katsuno.M, Sobue G, Cardiac and peripheral vasomotor autonomic functions in hereditary ATTR amyloidosis with Val30Met mutation, The XVIth International Symposium on Amyloidosis, Japan, Kumamoto March 26-29, 2018.

14) Yamashita Y, Sekijima Y, Koike H, Ueda M, Yoshinaga T, Kodaira M, Sobue G, Katsuno M, Singh T, Hashimoto Y, Kadam K, Hou A, Ando Y, Patisiran, an investigational RNAi therapeutic for patients with hereditary transthyretin-mediated (hATTR) amyloidosis: Phase 3 APOLLO study subanalysis of Japanese patients, The XVIth International Symposium on Amyloidosis, Japan, Kumamoto March 26-29, 2018.

15) Sekijima Y, Yazaki M, Ueda M, Koike H, Yamada M, Ando Y, First nationwide survey on systemic wild-type ATTR amyloidosis in Japan, The XVIth International Symposium on Amyloidosis, Japan, Kumamoto March 26-29, 2018.

16) 小池春樹: 末梢神経疾患をめぐる病態と治療法の新たな展開. 第59回日本神経学会学術大会, 札幌, 5, 23-26, 2018.

17) 小池春樹: アルコール性・栄養欠乏性ミエロパチー. 第59回日本神経学会学術大会, 札幌, 5, 23-26, 2018.

18) 小池春樹: 痛みの神経病理. 第29回日本末梢神経学会学術集会, 下関, 9, 7-8, 2018.

19) 小池春樹: 免疫介在性ニューロパチーにおける血液神経関門の破綻と病態. 第30回日本神経免疫学会学術集会, 郡山, 9, 20-21, 2018.

島崎千尋

1) Shimazaki C. Current diagnosis and treatment of AL amyloidosis in Japan. 第80回日本血液学会学術集会, 大阪, 10.12-14, 2018.

2) Fuchida S, Taminishi Y, Matsui S, Hatsuse M, Murakami S, Shimazaki C. Retrospective analysis of

IgM AL amyloidosis in our hospital. 第80回日本血液学会学術集会, 大阪, 10.12-14, 2018.

3) Fuchida S, Taminishi Y, Matsui S, Hatsuse M, Murakami S, Shimazaki C. Retrospective analysis of 45 cases with cardiac AL amyloidosis in our hospital. The XVIth International Symposium on Amyloidosis. Kumamoto, 3.26-29, 2018.

4) 淵田真一, 民西葉子, 松井紗央梨, 初瀬真弓, 村頭智, 島崎千尋: 心 AL アミロイドーシス 45 例における突然死に関する後方視的検討. 第6回日本アミロイドーシス研究会学術集会, 松本, 8,25, 2018.

飯田真介

1) Iida S, Matsumoto M, Kosugi H, Noguchi H, Suzuki A, Yamazaki H, Shibayama H: Subcutaneous delivery of daratumumab in Japanese patients with RRMM: a phase 1 study. 第80回日本血液学会学術総会, 大阪, 10, 12-14, 2018.

2) Iida S, Maruyama D, Ogawa G, Kusumoto S, Fukuhara S, Seo S, Miyazaki K, Yoshimitsu M, Kuroda J, Tsukamonoto N, Tsujimura H, Hangaishi A, Yamauchi T, Utsumi T, Mizuno H, Takamatsu Y, Nagata Y, Minauchi K, Ohtsuka E, Hanamura I, Tokunaga T, Yoshida S, Yamasaki S, Suehiro Y, Kamiyama Y, Miyamoto K, Watanabe Y, Tsukasaki K, Nagai H: Randomized phase II study to optimize MPB in untreated transplant-ineligible myeloma: JCOG1105. 第80回日本血液学会学術総会, 大阪, 10, 12-14, 2018.

3) Maruyama D, Iida S, Ogawa G, Kusumoto S, Fukuhara S, Seo S, Miyazaki K, Yoshimitsu M, Kuroda J, Tsukamonoto N, Tsujimura H, Hangaishi A, Yamauchi T, Utsumi T, Mizuno H, Takamatsu Y, Nagata Y, Minauchi K, Ohtsuka E, Hanamura I, Tokunaga T, Yoshida S, Yamasaki S, Suehiro Y, Kamiyama Y, Miyamoto K, Watanabe Y, Tsukasaki K, Nagai H: Randomized phase II study for optimizing melphalan, prednisolone and bortezomib (MPB) in transplant-ineligible newly diagnosed multiple myeloma (NDMM): Japan Clinical Oncology Group Study (JCOG1105). The 23rd Congress of the European Hematology Association (EHA23),

Stockholm, June, 14-17, 2018.

植田光晴

- 1) 植田光晴、安東由喜雄：アミロイドーシスの診断と治療 update - ガイドライン 2017 . 平成 29 年度日本神経学会九州地区生涯教育講演会、March 11, 2018, 福岡
- 2) 植田光晴、安東由喜雄：家族性アミロイドポリニューロパチーの早期診断と治療. シンポジウム「神経内科医が知っておくべき代謝性神経疾患 = 保険治療の最前線=」、第 59 回日本神経学会学術大会, May 23-26, 2018, 札幌
- 3) 植田光晴：アミロイドーシスの非侵襲的診断・病態評価法の発展 . シンポジウム「アミロイドーシスの診断法の発展を追求」、第 6 回日本アミロイドーシス研究会、Aug 25, 2018, 松本
- 4) 植田光晴、安東由喜雄：加齢により発症するトランスサイレチンアミロイドーシスの病態解析 . ワークショップ「組織恒常性のフレキシビリティ低下と加齢関連疾患」、第 41 回日本分子生物学会年会、Nov 28-30, 2018, 横浜

大橋健一

- 1) 渡邊 駿, 早見 典子, 小黒 昌彦, 大島 洋一, 井熊 大輔, 関根 章成, 川田 真宏, 平松 里佳, 住田 圭一, 長谷川 詠子, 山内 真之, 諏訪部 達也, 星野 純一, 澤 直樹, 石井 保夫, 高市 憲明, 大橋 健一, 藤井 丈士, 矢崎 正英, 乳原 善文. 2 度の腎生検で診断された AH アミロイドーシスの 10 年の経過
日本透析医学会雑誌(1340-3451)51 巻 Suppl.1
Page521(2018.05)

小野賢二郎

- 1) Ono K, Watanabe-Nakayama T, Itami M, Takahashi R, Teplow DB, Yamada M: High-speed atomic Force Microscopy Reveals Structural Dynamics of Amyloid β 1-42 Aggregates(2). Alzheimer's Association International Conference 2018(AAIC), Chicago(USA), July 22-26, 2018.
- 2) 小野賢二郎, 中山隆宏, 伊丹将大, 高橋良一, Teplow DB, 山田正仁: High-Speed Atomic Force Microscopy Reveals Structural Dynamics of Amyloid

β 1-42 Aggregates (2). 第 59 回日本神経学会学術大会, 札幌, 5,23-26, 2018.

- 3) 黒田岳志, 森友紀子, 二村明德, 四郎丸あずさ, 矢野 怜, 金野竜太, 村上秀友, 小野賢二郎: アルツハイマー病における微小脳出血の検討. 第 59 回日本神経学会学術大会, 札幌, 5,23-26, 2018.
- 4) 二村明德, 四郎丸あずさ, 森 友紀子, 黒田岳志, 矢野 怜, 金野竜太, 村上秀友, 小野賢二郎: AD と DLB の鑑別における ECD-脳血流 SPECT CIS core の有用性について. 第 59 回日本神経学会学術大会, 札幌, 5,23-26, 2018.
- 5) 小野賢二郎: 原子間力顕微鏡および電子顕微鏡によるアミロイド構成蛋白質凝集の観察. 日本顕微鏡学会第 74 回学術講演会・第 11 回風戸賞受賞講演会 福岡, 5,29-31, 2018.
- 6) 小野賢二郎: シロスタゾールの抗アミロイド効果. 第 9 回日本脳血管・認知症学会総会, 大分, 8,4-5, 2018.
- 7) 小野賢二郎: 蛋白凝集から神経変性疾患の治療戦略を探る. 第 6 回日本アミロイドーシス研究会学術集会, 長野, 8,25, 2018.
- 8) 黒田岳志, 森 友紀子, 二村明德, 四郎丸あずさ, 笠井秀世, 矢野 怜, 金野竜太, 村上秀友, 小野賢二郎: アルツハイマー病における脳微小出血と脳脊髄液循環障害の関連性についての検討. 第 6 回日本アミロイドーシス研究会学術集会, 松本, 8,25, 2018.
- 9) 小野賢二郎: Treatment of Alzheimer's disease: Current situation and prospect. 第 40 回日本生物学的精神医学会・第 61 回日本神経化学学会大会 合同年会, 神戸, 9,6-8, 2018.
- 10) 小野賢二郎: Supratherapeutic concentrations of cilostazol inhibits β -amyloid oligomerization in vitro, 第 40 回日本生物学的精神医学会・第 61 回日本神経化学学会大会 合同年会, 神戸, 9,6-8, 2018.
- 11) 小野賢二郎: アルツハイマー病の臨床病理病態. 第 8 回日本認知症予防学会学術集会・第 5 回日本認知症予防学会認知症予防専門医教育セミナー, 東京, 9,22-24, 2018.
- 12) 所澤修任, 小口達敬, 辻 まゆみ, 矢野 怜, 木内祐二, 小野賢二郎: In vitro においてシロスタゾールは アミロイドのオリゴマー化を抑制する. 第 37 回日本認知症学会学術集, 札幌, 10,12-14,

2018.

13) 二村明德, 四郎丸あずさ, 森 友紀子, 黒田岳志, 矢野 怜, 金野竜太, 村秀友, 小野 賢二郎: AD と DLB の鑑別における ECD 脳血流 SPECT CIS core の有用性について. 第 37 回日本認知症学会学術集会, 札幌, 10,12-14, 2018.

関島良樹

1) Sekijima Y: Tools to define the earliest diagnosis. XVI International Symposium on Amyloidosis, Kumamoto, Japan, 3,26-28, 2018.

2) Sekijima Y, Ueda M, Koike H, Misawa S, Ando Y: Japanese consensus of diagnosis and treatments for ATTRm amyloidosis. XVI International Symposium on Amyloidosis, Kumamoto, Japan, 3,26-28, 2018.

3) Sekijima Y, Yazaki M, Ueda M, Koide H, Yamada M, Ando Y: First nationwide survey on systemic wild-type ATTR amyloidosis in Japan. XVI International Symposium on Amyloidosis, Kumamoto, Japan, 3, 26-28, 2018.

4) Sekijima Y. Tools to define the earliest diagnosis. XVI International Symposium on Amyloidosis. Kumamoto, Japan, 3,26-28, 2018.

5) Katoh N, Abe R, Ezawa N, Miyazaki D, Sekijima Y. Amyloid myopathy: Diagnosis, clinical presentation, pathology, and amyloid imaging findings of this rare myopathy associated with systemic immunoglobulin light chain

(AL) amyloidosis. XVI International Symposium on Amyloidosis, Kumamoto, Japan, 3,26-28, 2018.

6) Sekijima Y, Mundayat R, Ishii T, Ando Y: The current status of the transthyretin amyloidosis outcomes survey (THAOS) in Japan. XVI International Symposium on Amyloidosis, Kumamoto, Japan, 3,26-28, 2018.

7) Yazaki M, Yoshinaga T, Sekijima Y. A Japanese patient with late-onset cardiomyopathy: the first Asian case of V122I hereditary ATTR amyloidosis. XVI International Symposium on Amyloidosis, Kumamoto, Japan, 3, 26-28, 2018.

8) Yazaki M, Yoshinaga T, Kametani F, Sekijima Y. Biochemical pathomechanism of progression of ocular and CNS amyloidosis in liver-transplanted hereditary

ATTR amyloidosis patients. XVI International Symposium on Amyloidosis, Kumamoto, Japan, 3,26-28, 2018.

9) Ishii T, Sekijima Y, Ando Y. Patient profile with ATTR-FAP and evaluation of the safety and efficacy of tafamidis meglumine in Japan. XVI International Symposium on Amyloidosis, Kumamoto, Japan, 3,26-28, 2018.

10) Ueno A, Katoh N, Ezawa N, Ueno K, Sekijima Y. Therapeutic impact of lenalidomide-dexamethasone for patients with relapsed or refractory systemic light chain (AL) amyloidosis. XVI International Symposium on Amyloidosis, Kumamoto, Japan, 3,26-28, 2018.

11) Shibata Y, Yabe I, Matsushima M, Matsuda K, Nagai A, Kano T, Yamada T, Sekijima Y, Sasaki H. Hereditary ATTR amyloidosis with a pseudo-homozygous Ala120Ser(p.Ala140Ser) transthyretin mutation due to a primer site polymorphism. XVI International Symposium on Amyloidosis, Kumamoto, Japan, 3, 26-28, 2018.

12) Ezawa N, Katoh N, Oguchi K, Yoshinaga T, Yazaki M, Sekijima Y. Evaluation of multiple organ amyloid involvement in systemic AL and ATTR amyloidosis using whole body ¹¹C-PiB-PET imaging. XVI International Symposium on Amyloidosis, Kumamoto, Japan, 3, 26-28, 2018.

13) Mizuno H, Hoshino J, Yazaki M, Fujii T, Sekijima Y, Kametani F, Higuchi K, Ubara Y, Takaichi K. New Variant of beta2 microglobulin V27M in a patient with dialysis-related amyloidosis. XVI International Symposium on Amyloidosis, Kumamoto, Japan, 3, 26-28, 2018.

14) Jiang X, Buxbaum JN, Chapman J, Coelho T, Sekijima Y, Labaudiniere R, Kelly JW. A specific and versatile immunoassay suitable for the diagnosis of transthyretin amyloidosis (ATTR) using a wide range of biological samples. XVI International Symposium on Amyloidosis, Kumamoto, Japan, 3,26-28, 2018.

15) Yamashita T, Sekijima Y, Koike H, Ueda M, Yoshinaga T, Kodaira M, Sobue G, Katsuno M, Singh T, Hashimoto Y, Kadam K, Hou A, Ando Y. Patisiran,

- an investigational RNAi therapeutic for patients with hereditary transthyretin-mediated (ATTRm) amyloidosis: phase 3 APOLLO study subanalysis of Japanese patients. XVI International Symposium on Amyloidosis, Kumamoto, Japan, 3,26-28, 2018.
- 16) Yoshinaga T, Yazaki M, Sekijima Y, Kametani F, Okumura N. Production and biochemical analysis of mutated fibrinogen A_α produced by CHO cells with 523 AGTC in *FGA* 'Japan original mutation'. XVI International Symposium on Amyloidosis, Kumamoto, Japan, 3, 26-28, 2018.
- 17) Yoshinaga T, Yazaki M, Kametani F, Uehara T, Komatsu O, Sekijima Y. The First Case of Wild-Type Cystatin C Amyloidosis identified from Granulomatous Amyloidoma in the Rectum. XVI International Symposium on Amyloidosis, Kumamoto, Japan, 3, 26-28, 2018.
- 18) Sekijima Y: Cardiac ATTR Amyloidosis. 2nd Cardiac ASH conference, Seoul, Korea, 10, 20-21, 2018.
- 19) Sekijima Y: Clinical Diversity of ATTR Amyloidosis. 2nd Cardiac ASH conference, Seoul, Korea, 10, 20-21, 2018.
- 20) Sekijima Y: Pathogenesis and Therapeutic Strategy for ATTR Amyloidosis. The 12th Institute for Biomedical Sciences International Symposium, Matsumoto, Japan, 1, 21, 2019.
- 21) 江澤直樹, 加藤修明, 小口和浩, 吉長恒明, 矢崎正英, 関島良樹: 全身性アミロイドーシスにおける 11C-PiB-PET の多臓器アミロイド沈着評価. 第 59 回日本神経学会学術大会, 札幌, 5, 23-26, 2018.
- 22) 小平農, 大橋信彦, 森田洋, 関島良樹: トランスサイレチン型 FAP 患者における体幹部長さ依存性細径線. 第 59 回日本神経学会学術大会, 札幌, 5, 23-26, 2018.
- 23) 吉長 恒明, 矢崎 正英, 亀谷 富由樹, 関島 良樹: ドミノ肝移植レシピエントにおける医原性アミロイドーシスの臨床病理的検討(第 2 報). 第 59 回日本神経学会学術大会, 札幌, 5, 23-26, 2018.
- 24) 大橋信彦, 小平農, 森田洋, 関島良樹: ATTR-FAP 患者が CIDP と誤診される電気生理学的ピットフォール. 第 59 回日本神経学会学術大会, 札幌, 5, 23-26, 2018.
- 25) 加藤修明, 阿部隆太, 江澤直樹, 宮崎大吾, 関島良樹: AL アミロイドミオパチーの診断、臨床像、病理像、およびアミロイドイメージング所見. 第 59 回日本神経学会学術大会, 札幌, 5, 23-26, 2018.
- 26) 関島良樹: 教育セミナー「著名な自律神経症状を呈した 71 歳男性」. 第 142 回信越地方会, 新潟, 6, 3, 2018.
- 27) 関島良樹: 全身性アミロイドーシス update. 第 6 回日本アミロイドーシス研究会学術集会, 松本, 8, 25, 2018.
- 28) 加藤修明, 上野晃弘, 小平農, 関島良樹: AL アミロイドーシス治療に伴うボルテゾミブニューロパチーの病像と電気生理学的特徴およびその発症予測因子. 第 6 回日本アミロイドーシス研究会学術集会, 松本, 8, 25, 2018.
- 29) 吉長恒明, 矢崎正英, 上原剛, 亀谷富由樹, 関島良樹: 野生型シスタチン C 型 アミロイドーシスを呈した消化管アミロイドーシスの一例(続報). 第 6 回日本アミロイドーシス研究会学術集会, 松本, 8, 25, 2018.
- 30) 上野晃弘, 加藤修明, 関島良樹: 再発性/難治性全身性 AL アミロイドーシスに対するレナリドミド-デキサメサゾン療法の有効性. 第 6 回日本アミロイドーシス研究会学術集会, 松本, 8, 25, 2018.
- 31) 春日一希, 大橋信彦, 高曾根健, 加藤修明, 関島良樹: 末梢神経障害を契機に診断された AH アミロイドーシスの 76 歳、男性例. 第 226 回日本神経学会関東・甲信越地方会, 東京, 9, 1, 2018.
- 32) 大橋信彦, 小平農, 森田洋, 関島良樹: CIDP と誤解釈されうる ATTR-FAP の電気生理学的ピットフォール. 第 29 回日本末梢神経学会学術集会, 下関, 9, 7-8, 2018.
- 33) 植田光治, 関島良樹, 三隅陽平, 増田曜章, 矢崎正英, 小池春樹, 山田正仁, 山下太郎, 安東由喜雄: 全国疫学調査を基にした家族性アミロイドポリニューロパチーの実態解明. 第 29 回日本末梢神経学会学術集会, 下関, 9, 7-8, 2018.
- 34) 関島良樹: アミロイドーシスの病態に基づいた疾患修飾療法の開発. 第 91 回日本生化学会大会, 京都, 9, 24-26, 2018.
- 35) 加藤修明, 上野晃弘, 関島良樹: Impact of lenalidomide-dexamethasone for patients with pretreated systemic light-chain amyloidosis. 第 80 回

日本血液学会学術集会,大阪, 10,12-14, 2018.

- 36) 小平農,大橋信彦,森田洋,関島良樹: トランスサイレチン型家族性アミロイドポリニューロパチー患者と健常者における体幹部A δ 線維機能の差. 第48回日本臨床神経生理学学会,東京, 11,8-10, 2018.
- 37) 大橋信彦,小平農,森田洋,関島良樹: ATTR-FAP患者がCIDPと誤診されうる電気生理学的ピットフォール. 第48回日本臨床神経生理学学会,東京, 11,8-10, 2018.
- 38) 加藤修明,上野晃弘,大橋信彦,小平農,関島良樹: ALアミロイドーシス治療に伴うボルテゾミブニューロパチーの病像と電気生理学的特長およびその発症予測因子. 第36回日本神経治療学会学術集会,東京, 11,23-25, 2018.
- 39) 池田淳司,大橋信彦,渡部理恵,佐藤俊一,関島良樹,池田修一: 本邦初の生体部分肝移植を受け、発症から27年間生存している遺伝性ATTRアミロイドーシス患者の治療経過. 第36回日本神経治療学会学術集会,東京, 11,23-25, 2018.
- 40) 関島良樹: アミロイドーシスと感染症 - アミロイドーシスの伝播を中心に -. 第23回日本神経感染症学会総会・学術大会, 東京, 10,19-20, 2018.

田原宣広

- 1) 田原宣広, 枚山陽一, 中村知久, 戸次宗久, 孫佳慧, 本多亮博, 田原敦子, 福本義弘: 高齢者における肺動脈性肺高血圧症. 第29回日本Pediatric Interventional Cardiology学会学術集会, JPIC-CVIT ジョイントシンポジウム「肺高血圧合併心疾患に対する治療戦略: 小児期から高齢者まで」, 福岡, 1, 18-20, 2018.
- 2) 田原宣広, 戸次宗久, 中村知久, 本多亮博, 田原敦子, 枚山陽一, 孫佳慧, 井形幸代, 上野高史, 福本義弘: Evaluation of vascular inflammation by FDG-PET in adult patients with a history of Kawasaki disease and coronary artery lesions. 第82回日本循環器学会学術集会, シンポジウム: 川崎病既往成人の冠動脈病変の病態の評価と管理, 大阪, 3, 23-25, 2018.
- 3) 田原宣広, 戸次宗久, 中村知久, 本多亮博, 田原敦子, 枚山陽一, 孫佳慧, 井形幸代, 福本義弘: Strategies for the diagnosis of cardiac amyloidosis. 第82回日本循環器学会学術集会, トピック: どう診

る、どうする、拡張不全! ~病態、診断、治療の最前線~, 大阪, 3, 23-25, 2018.

- 4) Honda A, Tahara N, Tahara A, Igata S, Bekki M, Nakamura T, Sugiyama Y, Igata S, Yamagishi S-I, Fukumoto Y: Effects of Anti-hypertensive Therapy on Cerebral Glucose Metabolism and Blood Flow in Patients with Essential Hypertension. 第82回日本循環器学会学術集会, 大阪, 3, 23-25, 2018.
- 5) 戸次宗久, 田原宣広, 中村知久, 枚山陽一, 孫佳慧, 本多亮博, 井形幸代, 田原敦子, 野口輝夫, 福本義弘: Comparison of T1WI signal and the FDG activity within coronary. 第82回日本循環器学会学術集会, 大阪, 3, 23-25, 2018.
- 6) 枚山陽一, 田原宣広, 井形幸代, 中村知久, 戸次宗久, 本多亮博, 田原敦子, 福本義弘: Long Term Survival of Patients with Pulmonary Hypertension at A Single Center. 第82回日本循環器学会学術集会, 大阪, 3, 23-25, 2018.
- 7) 田原宣広, 本多亮博, 田原敦子, 戸次宗久, 枚山陽一, 孫佳慧, 中村知久, 井形幸代, 福本義弘: 血管内皮機能と血管炎症の関係. 第18回日本NO学会学術集会, シンポジウム NO・内皮機能による心血管病の診断・治療の進歩, 京都, 5, 17-18, 2018.
- 8) 伊東智樹, 枚山陽一, 高橋甚彌, 大淵綾, 仲吉孝晴, 大塚昌紀, 飛永覚, 田原宣広, 田中啓之, 福本義弘: 当院で初めて肺動脈血栓内膜除去術を実施した一例. 第321回日本内科学会九州地方会, 久留米, 5, 19, 2018.
- 9) 本多亮博, 田原宣広, 戸次宗久, 中村知久, 平方佐季, 熊埜御堂淳, 高瀬文敬, 高木数実, 田中啓之, 福本義弘: 未治療の先端巨大症に合併した僧帽弁逸脱症に対して外科的治療を行った一例. 日本超音波医学会第91回学術集会, 神戸, 6, 8-10, 2018.
- 10) 田原宣広, 本多亮博, 田原敦子, 戸次宗久, 枚山陽一, 孫佳慧, 中村知久, 井形幸代, 福本義弘: 肺高血圧症治療のNext Stage. 第3回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会, ランチョンセミナー5, 大阪, 6, 22-23, 2018.
- 11) 枚山陽一, 田原宣広, 中村知久, 戸次宗久, 本多亮博, 孫佳慧, 田原敦子, 井形幸代, 熊谷英太, 福本義弘: セレキシパグ導入が困難だった特発性肺動脈性肺高血圧症の一例. 第3回日本肺高

血圧症・肺循環学会, 大阪, 6, 22-23, 2018.

12) 枚山陽一、田原宣広、中村知久、戸次宗久、本多亮博、孫佳慧、田原敦子、井形幸代、熊谷英太、福本義弘: 当院における肺高血圧症の長期予後. 第3回日本肺高血圧症・肺循環学会, 大阪, 6, 22-23, 2018.

13) 枚山陽一、田原宣広、中村知久、戸次宗久、本多亮博、孫佳慧、田原敦子、井形幸代、福本義弘: 当院における肺高血圧症の長期予後. 第124回日本循環器病学会九州地方会 YIA セッション, 鹿児島, 6, 30, 2018.

14) 田原宣広: 川崎病既往者の成人期における血管炎症の評価 ~FDG-PET/CT を用いた検討 ~. 第27回日本心血管インターベンション治療学会学術集会, 日本川崎病学会合同セッション 川崎病心合併症の発生状況と遠隔期治療, 神戸, 8, 2-4, 2018.

15) 本多亮博、田原宣広、戸次宗久、中村知久、枚山陽一、井形幸代、福本義弘: PET 検診を契機に2次性高血圧の確定診断に至った一例. 第66回日本心臓病学会学術集会, 大阪, 9, 7-9, 2018.

16) 本多亮博、田原宣広、田原敦子、戸次宗久、中村知久、枚山陽一、新田良和、井形幸代、福本義弘: 高血圧治療が、脳血流および脳代謝活性にもたらす影響—脳血流 SPECT と FDGPET/CT を用いた検討—. 第8回認知症予防学会学術集会, 東京, 9, 22-24, 2018

17) 本多 亮博、田原 宣広、田原 敦子、戸次 宗久、中村 知久、枚山 陽一、新田 良和、井形 幸代、福本 義弘: 高血圧治療が血管内皮機能、血管炎症、血圧変動に及ぼす影響について. 日本超音波医学会第28回九州地方会学術集会, YIA, 福岡, 10, 28, 2018.

18) 田原宣広、枚山陽一、中村知久、戸次宗久、田原敦子、前田詔子、孫佳慧、本多亮博、井形幸代、福本義弘: 肺高血圧症における右心機能. Cardiovascular and Metabolic Week 2018 第40回 心筋生検研究会, 東京, 12, 7-8, 2018.

19) 戸次宗久、田原宣広、仲吉孝晴、中村知久、枚山陽一、孫佳慧、本多亮博、井田幸代、田原敦

子、野口哲夫、福本義弘: 冠動脈プラークにおける FDG-PET と非造影 T1 強調 MR 画像の比較. 第29回日本心血管画像動態学会 シンポジウム: 冠動脈疾患における分子イメージング, 久留米, 1, 25-26, 2019.

20) 田原宣広、戸次宗久、田原敦子、新田良和、本多亮博、井形幸代、枚山陽一、前田詔子、孫佳慧、中村知久、仲吉孝晴、福本義弘、上野高史: 冠動脈病変における炎症活動性評価-FDG-PET/CT を用いた検討 -. 第29回日本心血管画像動態学会・第88回日本心臓血管放射線研究会 合同シンポジウム: 循環器画像診断の新たな展開, 久留米, 1, 25-26, 2019.

21) 戸次宗久、田原宣広、田原敦子、枚山陽一、緒方詔子、本多亮博、井形幸代、中村知久、孫佳慧、山岸昌一、福本義弘: Switching DPP-4 Inhibitors to Tofogliflozin, a Selective Inhibitor of SGLT2 Improves Arterial Stiffness Evaluated by CAVI in Patients with Diabetes. 第83回日本循環器学会学術集会, 横浜, 3, 29-31, 2019.

22) 田原宣: 心不全診療における分子イメージングの有用性. 第83回日本循環器学会学術集会, ランチョンセミナー13 慢性心不全診療における画像モダリティの活用, 横浜, 3, 29-31, 2019.

H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む)

1. 特許取得

畑 裕之

発明の名称: 多発性骨髄腫治療用医薬用組成物
出願番号: 特願 2018-097003

出願日: 2018年05月21日

出願人: 国立大学法人 熊本大学

発明者: 松岡 雅雄, 河野 和, 畑 裕之

2. 実用新案登録

なし。

3. その他

なし。

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
玉岡晃	認知症治療薬	小松康宏, 渡邊裕司	Pocket Drugs 2019	医学書院	東京	2019	90-91
石井亜紀子, 玉岡晃	第11章 神経・筋の疾患「脳血管疾患」	寺田弘, 金保安則, 原晃, システム薬学研究機構	Common Disease の病態生理と薬物治療	Ohmsha	東京	2019	279-282
石井一弘, 玉岡晃	第11章 神経・筋の疾患「てんかん」	寺田弘, 金保安則, 原晃, システム薬学研究機構	Common Disease の病態生理と薬物治療	Ohmsha	東京	2019	289-294
中馬越清隆, 玉岡晃	第11章 神経・筋の疾患「パーキンソン病」	寺田弘, 金保安則, 原晃, システム薬学研究機構	Common Disease の病態生理と薬物治療	Ohmsha	東京	2019	301-304
玉岡晃	第11章 神経・筋の疾患「アルツハイマー型認知症」	寺田弘, 金保安則, 原晃, システム薬学研究機構	Common Disease の病態生理と薬物治療	Ohmsha	東京	2019	311-316
富所康志, 玉岡晃	第11章 神経・筋の疾患「血管性認知症」	寺田弘, 金保安則, 原晃, システム薬学研究機構	Common Disease の病態生理と薬物治療	Ohmsha	東京	2019	319-320
玉岡晃	Alzheimer 病	岡庭豊, 荒瀬康司, 三角和雄	イヤートート TOPICS 2018-2019 内科・外科疾患 第8版	MEDIC MEDIA	東京	2018	J9-J14
玉岡晃	Alzheimer 病	岡庭豊, 荒瀬康司, 三角和雄	イヤートート TOPICS 2019-2020 内科・外科疾患 第9版	MEDIC MEDIA	東京	2018	J9-J15
玉岡晃	抗てんかん薬, パーキンソン病 / 症候群治療薬, 脳循環代謝改善薬, 筋弛緩薬, 自律神経作用薬, 抗めまい薬, 片頭痛治療薬, その他の神経系用薬	北原光夫, 上野文昭, 越前宏俊	治療薬マニュアル 2018	医学書院	東京	2018	279-434
玉岡晃	抗てんかん薬, パーキンソン病 / 症候群治療薬, 脳循環代謝改善薬, 筋弛緩薬,	北原光夫, 上野文昭, 越前宏俊	治療薬マニュアル 2019	医学書院	東京	2019	287-446

	自律神経作用薬, 抗めまい薬, 片頭痛治療薬, その他の神経系用薬						
玉岡晃	序文-神経内科医の立場から	玉岡晃, 柴田靖, 根本清貴	臨床医・RI技師のための脳SPECTパーフェクトガイド	メディカ出版	大阪	2018	3
玉岡晃	運動ニューロン疾患を伴う前頭側頭型認知症 (FTD-MND)	玉岡晃, 柴田靖, 根本清貴	臨床医・RI技師のための脳SPECTパーフェクトガイド	メディカ出版	大阪	2018	120-126
玉岡晃	ヒ素中毒による末梢神経障害はどのように診断しますか?	神田隆	末梢神経障害	中外医学社	東京	2018	235-238
玉岡晃	認知症治療薬	小松康宏, 渡邊裕司	Pocket Drugs 2018	医学書院	東京	2018	90-91
東海林幹夫	MCIの早期診断	粟田主一, 北川泰久, 鳥羽研二, 三村将, 弓倉整, 横手幸太郎	認知症トータルケア, 日本医師会雑誌, 第147巻・特別号(2)	日本医師会	東京	2018	77-78
長谷川詠子, 高市憲明	アミロイドA蛋白		腎と透析ベッドサイド検査事典	東京医学社	東京	2018	91-93
Masaki Ohya, Mitsuru Yashiro, Tomohiro Sonou, Kouji Okuda, Toru Mima, Yoshinori Tone, Shigeo Negi, Yasushi Saika, Takashi Shigematsu	Intravenous maxacalcitol therapy correlates with serum fibroblast growth factor 23 levels in hemodialysis patients independent of serum phosphate or calcium levels	Nakamoto H	Contrib Nephrol	Karger	Switzerland	2018	44-51
Koike H	Myelopathy and neuropathy associated with alcoholism.	Preedy VR	The Neuroscience of Alcohol: Mechanisms and Treatment	Elsevier	Amsterdam	in press	
小池春樹	多発ニューロパチー.	福井次矢, 高木誠, 小室一成	今日の治療指針 2018年版	医学書院	東京	2018	954-955

小池春樹	血管炎性ニューロパチー.	水澤英洋, 山口修平, 園生雅弘	神経疾患最新の治療 2018-2020	南江堂	東京	2018	257-258
小池春樹	慢性炎症性脱髄性多発ニューロパチーに対する免疫グロブリン維持療法	鈴木則宏, 荒木信夫, 宇川義一, 桑原 聡, 塩川芳昭	Annual Review 神経 2018	中外医学社	東京	2018	257-262
小池春樹	ジカウイルス感染症とギラン・バレー症候群.	鈴木則宏, 荒木信夫, 宇川義一, 桑原 聡, 塩川芳昭	Annual Review 神経 2019	中外医学社	東京	2019	256-262
小池春樹	ビタミン B1 ニューロパチーはどのような患者で疑いますか? どのように治療しますか?.	神田隆	末梢神経障害 (神経内科 Clinical Questions & Pearls)	中外医学社	東京	2018	226-230
淵田真一, 島崎千尋	原発性アミロイドーシスの治療.	金倉譲, 木崎昌弘, 鈴木律朗, 神田善伸	EBM 血液疾患の治療 2019-2020.	中外医学社	東京	2018	402-405
島崎千尋	AL アミロイドーシス	日本血液学会	造血器腫瘍診療ガイドライン 2018 年版.	金原出版株式会社	東京	2018	371-373
島崎千尋	CQ1. 全身性アミロイドーシスに対し 自家造血幹細胞移植併用大量メルファラン療法を行うことは行わない場合と比べて予後を改善させるか?	日本血液学会	造血器腫瘍診療ガイドライン 2018 年版.	金原出版株式会社	東京	2018	374
島崎千尋	CQ2. 移植適応のない全身性アミロイドーシス患者にはどのような治療が推奨されるか?.	日本血液学会	造血器腫瘍診療ガイドライン 2018 年版.	金原出版株式会社	東京	2018	375
飯田真介	第3章 1 多発性骨髄腫 総論/アルゴリズム	日本血液学会	造血器腫瘍診療ガイドライン 第2(2018年)版	金原出版	東京	2018	320-334
稲垣淳, 飯田真介	2章 9.2) 形質細胞骨髄腫(多発性骨髄腫)	直江知樹, 小松則夫, 宮崎泰司, 中村栄男, 飯田真介, 大島孝一, 木下朝博, 吉野正	WHO血液腫瘍分類 WHO 分類 2017 をうまく活用するために	医薬ジャーナル社	大阪	2018	221-228

二村明徳, 小野賢二 郎	抗認知症治療薬	金子明寛, 富野康日 己, 青木洋介, 佐野公人, 柴原孝彦, 川辺良一, 篠原光代	歯科におけるくすりの 使い方 2019-2022	株式会社 デンタル ダイヤモンド社	東京	2018	218-219
Sekijima Y	Hereditary Transthyretin Amyloidosis	Adam MP	Gene Reviews	University of Washingto n	Seattle, USA	2018	
関島良樹	遺伝性 ATTR (ATTRm) アミ ロイドーシス	水澤英洋, 山口修平, 園生雅弘	神経疾患最新の治療 2018-2020	南江堂	東京	2018	267-269
関島良樹	FAP のケースア プローチ	神田隆	神経内科 Clinical Questions & Pearls 末梢神経障害	中外医学 社	東京	2018	200-203
田原宣広, 田原敦子, 本多亮博, 戸次宗久, 枚山陽一, 孫佳慧,中 村知久,井 形幸代,福 本義弘	分子イメージン グによる血管炎 症の評価	小室一成	別冊 BIO Clinica 慢 性炎症と疾患, 心臓 と血管の慢性炎症 (生活習慣病)	株式会社 北陸	東京	2018	1073-1080
田原宣広, 戸次宗久, 福本義弘	核医学/PET.	小室一成	循環器内科専門医バ イブル, 心不全, 識 る・診る・治す	株式会社 中山書店	東京	2018	91-100
田原宣広	心臓核医学によ る心不全診断 核医学により何 を診断できるの か.	小室一成	医学のあゆみ, 心不 全のすべて	医歯薬出 版株式会 社	東京	2018	1073-1080
田原宣広	心筋シンチグラ フィ/PET.	猪又孝元	ザ・マニュアル 心不 全のセット検査	株式会社 メジカル ビュー社	東京	2019	159-163
枚山陽一, 田原宣広, 福本義弘	肺高血圧症	泉 孝英	ガイドライン外来診 療 2019, 今日の診療 のために	日経メデ ィカル	東京	2019	421-430

研究成果の刊行に関する一覧表

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Endo Y, Hasegawa K, Nomura R, Arishima H, Kikuta KI, Yamashita T, Inoue Y, Ueda M, Ando Y, Wilson MR, Hamano T, Nakamoto Y, Naiki H	Apolipoprotein E and clusterin inhibit the early phase of amyloid- β aggregation in an in vitro model of cerebral amyloid angiopathy.	Acta Neuropathol Commun	7(1)	12	2019
Adachi M, Noji M, So M, Sasahara K, Kardos J, Naiki H, Goto Y	Aggregation-phase diagrams of β 2-microglobulin reveal temperature and salt effects on competitive formation of amyloids versus amorphous aggregates.	J Biol Chem	293(38)	14775-14785	2018
Endo Y, Hasegawa K, Nomura R, Arishima H, Kikuta KI, Yamashita T, Inoue Y, Ueda M, Ando Y, Wilson MR, Hamano T, Nakamoto Y, Naiki H	Apolipoprotein E and clusterin inhibit the early phase of amyloid- β aggregation in an in vitro model of cerebral amyloid angiopathy.	Acta Neuropathol Commun	7(1)	12	2019
Nakamura M, Misumi Y, Nomura T, Oka W, Isoguchi A, Kanenawa K, Masuda T, Yamashita T, Inoue Y, Ando Y, Ueda M	Extreme Adhesion Activity of Amyloid Fibrils Induces Subcutaneous Insulin Resistance.	Diabetes	68(3)	609-616	2019
Kameyama H, Uchimura K, Yamashita T, Kuwabara K, Mizuguchi M, Hung SC, Okuhira K, Masuda T, Kosugi T, Ohgita T, Saito H, Ando Y, Nishitsuji K	The accumulation of heparan sulfate S-domains in kidney transthyretin deposits accelerates fibril formation and promotes cytotoxicity.	Am J Pathol	189(2)	308-319	2019
Kato TS, Ikeda N, Maurer MS, Ando Y, Tanno K	Transthyretin stabilizer is associated with expanding apical sparing area and improving global cardiac function in a patient with wild-type cardiac amyloidosis.	Circ J	83(3)	690	2019
Tasaki M, Ueda M, Hoshii Y, Mizukami M, Matsumoto S, Nakamura M, Yamashita T, Ueda A, Misumi Y, Masuda T, Inoue Y, Torikai T, Nomura T, Tsuda Y, Kanenawa K, Isoguchi A, Okada M, Matsui H, Obayashi K, Ando Y	A novel age-related venous amyloidosis derived from EGF-containing fibulin-like extracellular matrix protein 1.	J Pathol			2018 in press

Yamamoto H, Hashimoto T, Kawamura S, Hiroe M, Yamashita T, Ando Y, Yokochi T	Hereditary cardiac amyloidosis associated with Pro24Ser transthyretin mutation: a case report.	J Med Case Rep	12(1)	370	2018
Tsuda Y, Yamanaka K, Toyoshima R, Ueda M, Masuda T, Misumi Y, Ogura T, Ando Y	Development of transgenic <i>Caenorhabditis elegans</i> expressing human transthyretin as a model for drug screening.	Sci Rep	8(1)	17884	2018
Ueda M, Yamashita T, Misumi Y, Masuda T, Ando Y	Origin of sporadic late-onset hereditary ATTR Val30Met amyloidosis in Japan.	Amyloid	25(3)	143-147	2018
Masuda T, Ueda M, Kitajima M, Morita K, Misumi Y, Yamashita T, Obayashi K, Yamashita Y, Ando Y	Teaching NeuroImages: Morphology of lumbosacral dorsal root ganglia and plexus in hereditary transthyretin amyloidosis.	Neurology	91(19)	e1834-e1835	2018
Hirakawa K, Takashio S, Marume K, Yamamoto M, Hanatani S, Yamamoto E, Sakamoto K, Izumiya Y, Kaikita K, Oda S, Utsunomiya D, Shiraishi S, Ueda M, Yamashita T, Yamashita Y, Ando Y, Tsujita K	Non-Val30Met mutation, septal hypertrophy, and cardiac denervation in patients with mutant transthyretin amyloidosis.	ESC Heart Fail	6(1)	122-130	2018
Okuda Y, Yamada T, Ueda M, Ando Y	First nationwide survey of 199 patients with amyloid A amyloidosis in Japan.	Intern Med	57(23)	3351-3355	2018
Nakano Y, Tadokoro K, Ohta Y, Sato K, Takemoto M, Hishikawa N, Yamashita T, Yamashita T, Ando Y, Abe K	Two cases of late onset familial amyloid polyneuropathy with a Glu61Lys transthyretin variant.	J Neurol Sci	390	22-25	2018
Ikeda T, Masuda T, Ueda M, Yamashita T, Misumi Y, Shinriki S, Ando Y	Unwanted road to anaemia in transthyretin familial amyloid polyneuropathy may continue irrespective of tafamidis treatment.	Ann Clin Biochem	55(5)	571-575	2018
Tsuda N, Shiraishi S, Oda S, Ogasawara K, Sakamoto F, Tomiguchi S, Fujisue K, Takashio S, Izumiya Y, Tsujita K, Ando Y, Yamashita Y	Utility of single-photon emission computed tomography/computed tomography fusion imaging with ^{99m} Tc-pyrophosphate scintigraphy in the assessment of cardiac transthyretin amyloidosis.	Circ J	82(7)	1970-1971	2018
Nishi S, Hoshino J, Yamamoto S, Goto S, Fujii H, Ubara Y, Motomiya Y, Morita H, Takaichi K, Yamagata K, Shigematsu T, Ueda M, Ando Y	Multicentre cross-sectional study for bone-articular lesions associated with dialysis related amyloidosis in Japan.	Nephrology (Carlton)	23(7)	640-645	2018

山下太郎, 植田光晴, 安東由喜雄	手根管症候群に潜む疾患の鑑別と治療 TTR-FAP: トランスサイレチン型家族性アミロイドポリニューロパチー	末梢神経	29(2)	224-231	2018
三隅洋平, 安東由喜雄	siRNA を用いた核酸医薬品の開発状況	Medical Science Digest	45(1)	17-20	2019
山下太郎, 安東由喜雄	アミロイドーシスの最近の知見	皮膚病診療	40(11)	1086-1092	2018
植田光晴, 安東由喜雄	遺伝性ニューロパチー 家族性アミロイドポリニューロパチー	Clinical Neuroscience	36(9)	1075-1079	2018
植田光晴, 三隅洋平, 増田曜章, 津田幸元, 井上泰輝, 野村隼也, 山下太郎, 安東由喜雄	トランスサイレチンフラグメントのアミロイド形成および細胞毒性の解析	末梢神経	29(1)	42-49	2018
三隅洋平, 安東由喜雄	主要疾患としびれ感、その対応 アミロイドニューロパチー	Clinical Neuroscience	36(4)	464-466	2018
Buxbaum JN, Brannagan III TH, Cisneros-Barroso E, Buades J, Conceição I, Kyriakides T, Obici L, Merlini G, Planté-Bordeneuve V, Rousseau A, Sekijima Y, Waddington M, Yamada M	Transthyretin deposition in the eye in the era of effective therapy for hereditary amyloid polyneuropathy.	Amyloid	24	1-5	2019
Hamaguchi T, Komatsu J, Sakai K, Noguchi-Shinohara M, Aoki S, Ikeuchi T, Yamada M	Cerebral hemorrhagic stroke associated with cerebral amyloid angiopathy in young adults about 3 decades after neurosurgeries in their infancy.	J Neurol Sci	399	3-5	2019
Miyake Z, Tomidokoro Y, Tsurubuchi T, Matsumura A, Sakamoto N, Noguchi M, Tamaoka A	Intravascular large B-cell lymphoma presenting with hearing loss and dizziness: A case report.	Medicine (Baltimore)	98(7)	e14470	2019
Shiraiwa N, Tamaoka A, Ohkoshi N	Clinical features of drug-induced Parkinsonism.	Neurol Int	10(4)	7877	2018
Yamamoto F, Taniguchi K, Mamada N, Tamaoka A, Kametani F, Lakshmana MK, Araki W	TFEB-mediated enhancement of the autophagy-lysosomal pathway dually modulates the process of amyloid β -protein generation in neurons.	Neuroscience	402	11-22	2019
Tsuji H, Ayako S, Takayashiki N, Irie T, Itoi S, Kodama T, Kaji Y, Matsuoka R, Mashiko R, Shibata Y, Ishii A, Siato Y, Tamaoka A	Meningeal carcinomatosis presenting with leukoencephalopathy-like imaging findings.	eNeurological Sci	14	21-23	2018

Nakamagoe K, Yamada S, Kawakami R, Miyake Z, Tozaka N, Okune S, Takeda H, Koganezawa T, Tamaoka A	Vestibular dysfunction as cortical damage with amyotrophic lateral sclerosis.	J Neurol Sci	397	4-8	2019
Tomono T, Hirai Y, Okada H, Miyagawa Y, Adachi K, Sakamoto S, Kawano Y, Chono H, Mineno J, Ishii A, Shimada T, Onodera M, Tamaoka A, Okada T	Highly efficient ultracentrifugation-free chromatographic purification of recombinant AAV serotype 9.	Mol Ther Methods Clin Dev	11	180-190	2018
Hosaka T, Yamashita T, Teramoto S, Hirose N, Tamaoka A, Kwak S	ADAR2-dependent A-to-I RNA editing in the extracellular linear and circular RNAs.	Neurosci Res		in press	2018
Miyake Z, Ishii K, Tamaoka A	Hypothyroidism induced by phenytoin and gabapentin: A Case Report.	Medicine (Baltimore)	97(43)	e12938	2018
Miyake Z, Nakamagoe K, Ezawa N, Yoshinaga T, Hashimoto R, Sato T, Sekijima Y, Tamaoka A	Late-onset transthyretin (TTR)-familial amyloid polyneuropathy (FAP) with a long disease duration from non-endemic areas in Japan.	Intern Med	58(5)	713-718	2019
Yamada E, Ishikawa E, Watanabe R, Matsumura H, Sakamoto N, Ishii A, Tamaoka A, Hattori K, Obara N, Chiba S, Nakamagoe K, Matsuda M, Tsurubuchi T, Tomidokoro Y, Akutsu H, Zaboronok A, Shibuya M, Takano S, Matsumura A	Random skin biopsies before brain biopsy for intravascular large B-cell lymphoma.	World Neurosurg	121	e364-e369	2019
Ishii K, Nemoto K, Iwasaki N, Takeda T, Masuda T, Shibata Y, Tamaoka A	Decreased regional cerebral blood flow in patients with diphenylarsinic acid intoxication.	Eur J Neurol	26(1)	136-141	2019
Terada M, Suzuki G, Nonaka T, Kametani F, Tamaoka A, Hasegawa M	The effect of truncation on prion-like properties of α -synuclein.	J Biol Chem	293(36)	13910-13920	2018
Nakamagoe K, Yanagiha H, Miyake Z, Kondo Y, Hiyama T, Ishii A, Kaji Y, Oshika T, Sumida T, Tamaoka A	Monocular oculomotor nerve disorder manifesting as cranial neuropathy in systemic lupus erythematosus.	Intern Med	57(23)	3445-3449	2018
Miyake Z, Ishii K, Matsuo H, Higuchi O, Tamaoka A	Isolated bilateral abducens paralysis without ptosis in an anti-LDL receptor-related protein 4 antibody-positive patient treated effectively with steroid-pulse therapy.	Neurol Sci	390	42-43	2018

Masuda T, Ishii K, Morishita Y, Iwasaki N, Shibata Y, Tamaoka A	Hepatic histopathological changes and dysfunction in primates following exposure to organic arsenic diphenylarsinic acid.	J Toxicol Sci	43(5)	291-298	2018
Kuwabara S, Misawa S, Mori M, Iwai Y, Ochi K, Suzuki H, Nodera H, Tamaoka A, Iijima M, Toda T, Yoshikawa H, Kanda T, Sakamoto K, Kusunoki S, Sobue G, Kaji R; Glovenin-I MMN Study Group	Intravenous immunoglobulin for maintenance treatment of multifocal motor neuropathy: A multi-center, open-label, 52-week phase 3 trial.	J Peripher Nerv Syst	23(2)	115-119	2018
Yamada K, Shiraishi H, Oki E, Ishige M, Fukao T, Hamada Y, Sakai N, Ochi F, Watanabe A, Kawakami S, Kuzume K, Watanabe K, Sameshima K, Nakamagoe K, Tamaoka A, Asahina N, Yokoshiki S, Miyakoshi T, Ono K, Oba K, Isoe T, Hayashi H, Yamaguchi S, Sato N	Open-label clinical trial of bezafibrate treatment in patients with fatty acid oxidation disorders in Japan.	Mol Genet Metab Rep	15	55-63	2018
Ishiura H, Doi K, Mitsui J, Yoshimura J, Matsukawa MK, Fujiyama A, Toyoshima Y, Kakita A, Takahashi H, Suzuki Y, Sugano S, Qu W, Ichikawa K, Yurino H, Higasa K, Shibata S, Mitsue A, Tanaka M, Ichikawa Y, Takahashi Y, Date H, Matsukawa T, Kanda J, Nakamoto FK, Higashihara M, Abe K, Koike R, Sasagawa M, Kuroha Y, Hasegawa N, Kanesawa N, Kondo T, Hitomi T, Tada M, Takano H, Saito Y, Sanpei K, Onodera O, Nishizawa M, Nakamura M, Yasuda T, Sakiyama Y, Otsuka M, Ueki A, Kaida KI, Shimizu J, Hanajima R, Hayashi T, Terao Y, Inomata-Terada S, Hamada M, Shiota Y, Kubota A, Ugawa Y,	Expansions of intronic TTTCA and TTTTA repeats in benign adult familial myoclonic epilepsy.	Nat Genet	50(4)	581-590	2018

Koh K, Takiyama Y, Ohsawa-Yoshida N, Ishiura S, Yamasaki R, Tamaoka A, Akiyama H, Otsuki T, Sano A, Ikeda A, Goto J, Morishita S, Tsuji S					
森山哲也, 中馬越清隆, 玉岡晃	バセドウ病を合併し、抗 CCP 抗体が陽性であった無菌性髄膜炎	日本医事新報	4949	10-11	2019
武田勇人, 三宅善嗣, 辻浩史, 玉岡晃	仙骨硬膜外ブロック後下肢運動感覚障害の造悪が認められた脊髄動静脈瘻	日本医事新報	4936	10-11	2018
玉岡晃	認知症の脳脊髄液診断・実施診療のための最新認知症学	日本臨床	76(増刊号 1)	44-49	2018
Preisich O, Schultz SA, Apel A, Kuhle J, Kaeser SA, Barro C, Gräber S, Kuder-Buletta E, LaFougere C, Laske C, Vöglein J, Levin J, Masters CL, Martins R, Schofield PR, Rossor MN, Graff-Radford NR, Salloway S, Ghetti B, Ringman JM, Noble JM, Chhatwal J, Goate AM, Benzinger TLS, Morris JC, Bateman RJ, Wang G, Fagan AM, McDade EM, Gordon BA, Jucker M; Dominantly Inherited Alzheimer Network.	Serum neurofilament dynamics predicts neurodegeneration and clinical progression in presymptomatic Alzheimer's disease.	Nat Med	25(2)	227-283	2019
Seino Y, Nakamura T, Kawarabayashi T, Hirohata M, Narita S, Wakasaya Y, Kaito K, Ueda T, Harigaya Y, Shoji M.	Cerebrospinal fluid and plasma biomarkers in neurodegenerative diseases.	J Alzheimers Dis	68(1)	395-404	2019
Nakamura T, Kawarabayashi T, Seino Y, Hirohata M, Nakahata N, Narita S, Itoh K, Nakaji S, Shoji M.	Aging and APOE-ε4 are determinative factors of plasma Aβ42 levels.	Ann Clin Transl Neurol	5(10)	1184-1191	2018
Iwatsubo T, Iwata A, Suzuki K, Ihara R, Arai H, Ishii K, Senda M, Ito K, Ikeuchi T, Kuwano R, Matsuda H; Japanese Alzheimer's Disease Neuroimaging Initiative, Sun CK,	Japanese and North American Alzheimer's Disease Neuroimaging Initiative studies: Harmonization for international trials.	Alzheimers Dement	14(8)	1077-1087	2018

Beckett LA, Petersen RC, Weiner MW, Aisen PS, Donohue MC; Alzheimer's Disease Neuroimaging Initiative.					
Nishi S, Hoshino J, Yamamoto S, Goto S, Fujii H, Ubara Y, Motomiya Y, Morita H, Takaichi K, Yamagata K, Shigematsu T, Ueda M, Ando Y.	Multicentre cross-sectional study for bone-articular lesions associated with dialysis related amyloidosis in Japan.	Nephrology (Carlton)	23(7)	640-645	2018
Okuda Y, Yamada T, Ueda M, Ando Y	First nationwide survey of 199 patients with amyloid A amyloidosis in Japan.	Intern Med	57	3351-3355	2018
Tanaka M, Kawakami T, Okino N, Sasaki K, Nakanishi K, Takase H, Yamada T, Mukai T	Acceleration of amyloid fibril formation by carboxyl-terminal truncation of human serum amyloid A.	Arch Biochem Biophys	639	9-15	2018
Ishida K, Ashizawa N, Matsumoto K, Kobashi S, Kurita N, Shigematsu T, Iwanaga T	Novel bisphosphonate compound FYB-931 preferentially inhibits aortic calcification in vitamin D3-treated rats.	J Bone Miner Metab		in press	2019
Kawakami K, Ohya M, Shigematsu T.	The prevention and treatment of vascular calcification.	Clin Calcium	29(2)	231-236	2019
Shoji T, Inaba M, Fukagawa M, Ando R, Emoto M, Fujii H, Fujimori A, Fukui M, Hase H, Hashimoto T, Hirakata H, Honda H, Hosoya T, Ikari Y, Inaguma D, Inoue T, Isaka Y, Iseki K, Ishimura E, Itami N, Ito C, Kakuta T, Kawai T, Kawanishi H, Kobayashi S, Kumagai J, Maekawa K, Masakane I, Minakuchi J, Mitsuiki K, Mizuguchi T, Morimoto S, Murohara T, Nakatani T, Negi S, Nishi S, Nishikawa M, Ogawa T, Ohta K, Ohtake T, Okamura M, Okuno S, Shigematsu T, Sugimoto T, Suzuki M, Tahara H, Takemoto Y, Tanaka K, Tominaga Y, Tsubakihara Y, Tsujimoto T, Tsuruya	Effect of oral alfacalcidol on clinical outcomes in patients without secondary hyperparathyroidism receiving maintenance hemodialysis: The J-DAVID randomized clinical trial.	JAMA	320(22)	2325-2334	2018

K, Ueda S, Watanabe Y, Yamagata K, Yamakawa T, Yano S, Yokoyama K, Yorioka N, Yoshiyama M, Nishizawa Y					
Toshitsugu Sugimoto, Daisuke Inoue, Masayuki Maehara, Ichiro Oikawa, Takashi Shigematsu, Yoshiki Nishizawa	Efficacy and Safety of Once-Monthly Risedronate in Osteoporosis Subjects with Mild to Moderate Chronic Kidney Disease: A Post Hoc Subgroup Analysis of a Phase III Trial in Japan.			in press	2019
Shinichi Nishi, Junichi Hoshino, Suguru Yamamoto, Shunsuke Goto, Hideki Fujii, Yoshifumi Ubara, Yoshihiro Motomiya, Hiroyuki Morita, Kenmei Takaichi, Kunihiro Yamagata, Takashi Shigematsu, Mitsuharu Ueda, Yukio Ando	Multicentre cross-sectional study for bone-articular lesions associated with dialysis related amyloidosis in Japan	Nephrology	23(7)	640-645	2018
Masaki Ohya, Mitsuru Yashiro, Tomohiro Sonou, Kouji Okuda, Toru Mima, Yoshinori Tone, Shigeo Negi, Yasushi Saika, Takashi Shigematsu	Intravenous maxacalcitol therapy correlates with serum fibroblast growth factor 23 levels in hemodialysis patients independent of serum phosphate or calcium levels.	Contrib Nephrol	196	44-51	2018
Yuko Iwashita, Masaki Ohya, Mitsuru Yashiro, Tomohiro Sonou, Kazuki Kawakami, Yuri Nakashima, Takuro Yano, Yu Iwashita, Toru Mima, Shigeo Negi, Kaoru Kubo, Koichi Tomoda, Toshitaka Odamaki, Takashi Shigematsu	Dietary changes involving Bifidobacterium longum and other nutrients delays CKD progression.	Am J Nephrol	47(5)	325-332	2018
Takashi Shigematsu, Masafumi Fukagawa, Keitaro Yokoyama, Takashi Akiba, Akifumi Fujii, Motoi Odani, Tadao Akizawa, ONO-5163 Study Group	Long-term effects of etelcalcetide as intravenous calcimimetic therapy in hemodialysis patients with secondary hyperparathyroidism	Clin Exp Nephrol	22	426-436	2018
Y Okuda, T Yamada, M Ueda, Y Ando	First nationwide survey of 199 reactive amyloid A amyloidosis in Japan.	Internal Medicine	57	3351-3352	2018
Y Okuda	AA amyloidosis – Benefits and prospects of IL-6 Inhibitors.	Mod Rheumatol		DOI: 10.1080/14397595.2018.15	2018

				15145	
S Tsujimoto, S Mokuda, K Matoba, A Yamada, K Jouyama, Y Murata, Y Ozaki, T Ito, S Nomura, Y Okuda	The prevalence of endoscopic gastric mucosal damage in patients with rheumatoid arthritis	PLoS One	13(7)	e0200023	2018
Shimazaki C, Hata H, Iida S, Ueda M, Katoh N, Sekishima Y, Ikeda S, Yazaki M, Fukushima W, Ando Y	Nationwide Survey of 741 Patients with Systemic Amyloid Light-chain Amyloidosis in Japan.	Intern Med	57(2)	181-187	2018
Eri Fujii E, Inada Y, Kakoki M, Nishimura N, Endo S, Fujiwara S, Wada N, Kawano Y, Okuno Y, Sugimoto T, Hata H.	Bufalin induces DNA damage response under hypoxic condition in myeloma cells.	Oncol Lett	15(5)	6443-6449	2018
Kasamatsu T, Ozaki S, Saitoh T, Konishi J, Sunami K, Itagaki M, Asaoku H, Cho T, Handa H, Hagiwara S, Wakayama T, Negoro A, Takezako N, Harada N, Kuroda Y, Nakaseko C, Miyake T, Inoue N, Hata H, Shimazaki C, Ohno T, Kuroda J, Murayama T, Kobayashi T, Abe M, Ishida T, Nagura E, Shimizu K.	Unsuppressed serum albumin levels may jeopardize the clinical relevance of the international staging system to patients with light chain myeloma.	Hematol Oncol	36(5)	792-800	2018
Oda S, Nakaura T, Utsunomiya D, Nakaura T, Takashio S, Izumiya Y, Tsujita K, Ueda M, Yamashita T, Ando Y, Kawano Y, Okuno Y, Hata H, Yamashita Y.	Role of Noninvasive Diagnostic Imaging in Cardiac Amyloidosis: A Review	Cardiovascular Imaging Asia	2(2)	97-106	2018
Endo S, Nishimura N, Kawano Y, Ueno N, Ueno S, Tatetsu H, Komohara Y, Takeya M, Hata H, Mitsuya H, Masao M.	MUC1/KL-6 expression confers an aggressive phenotype upon myeloma cells.	Biochem Biophys Res Commun	507 (1-4)	246-252	2018
河野和, 松岡雅雄, 畑裕之	AL アミロイドーシスの診断と治療の進歩	日本臨床	76(7)	1242□1248	2018
Koike H, Nishi R, Ikeda S, Kawagashira Y, Iijima M, Katsuno M, Sobue G	Evolution of amyloid fibrils in hereditary transthyretin amyloidosis: an ultrastructural study.	Amyloid			in press

Koike H, Nakamura T, Nishi R, Ikeda S, Kawagashira Y, Iijima M, Katsuno M, Sobue G	Cardiac and peripheral vasomotor autonomic functions in hereditary transthyretin amyloidosis with non-Val30Met mutation.	Amyloid				in press
Koike H, Nakamura T, Nishi R, Ikeda S, Kawagashira Y, Iijima M, Yasuda T, Mukai E, Date Y, Shiomi K, Nakazato M, Katsuno M, Sobue G	Common clinicopathological features in late-onset hereditary transthyretin amyloidosis (Ala97Gly, Val94Gly, and Val30Met).	Amyloid				in press
Koike H, Katsuno M	Ultrastructure in transthyretin amyloidosis: from pathophysiology to therapeutic insights.	Biomedicines	7(1)	11		2019
Koike H, Katsuno M, Sobue G	New teased-fibre definitions represent specific mechanisms of neuropathy.	J Neurol Neurosurg Psychiatry	90(2)	124		2019
Koike H, Nishi R, Ikeda S, Kawagashira Y, Iijima M, Katsuno M, Sobue G	Ultrastructural mechanisms of macrophage-induced demyelination in CIDP.	Neurology	91(23)	1051-1060		2018
Koike H, Katsuno M, Sobue G	Deciphering mechanism and spectrum of chronic inflammatory demyelinating polyneuropathy by morphology.	Clin Exp Neuroimmunol	9(1)	35-46		2018
Koike H, Nishi R, Ikeda S, Kawagashira Y, Iijima M, Sakurai T, Shimohata T, Katsuno M, Sobue G	The morphology of amyloid fibrils and their impact on tissue damage in hereditary transthyretin amyloidosis: An ultrastructural study.	J Neurol Sci	394	99-106		2018
Koike H, Nishi R, Ikeda S, Kawagashira Y, Iijima M, Atsuta N, Nakamura T, Hiayama M, Ogata H, Yamasaki R, Kira JI, Katsuno M, Sobue G	Restoration of a conduction block after the long-term treatment of CIDP with anti-neurofascin 155 antibodies: follow-up of a case over 23 years.	Intern Med	57	2061-2066		2018
Koike H, Yasuda T, Nishi R, Ikeda S, Kawagashira Y, Iijima M, Sobue G, Katsuno M	Systemic angiopathy and axonopathy in hereditary transthyretin amyloidosis with Ala97Gly (p. Ala117Gly) mutation: a post-mortem analysis.	Amyloid	25(2)	141-142		2018
Koike H, Nakamura T, Nishi R, Ikeda S, Kawagashira Y, Iijima M, Katsuno M, Sobue G	Widespread cardiac and vasomotor autonomic dysfunction in von-Val30Met hereditary transthyretin amyloidosis.	Intern Med	57(23)	3365-3370		2018
Nakamura T, Koike H, Nishi R, Ikeda S, Kawagashira Y, Iijima M, Katsuno M, Sobue G	Cardiovascular autonomic functions in late-onset hereditary transthyretin amyloidosis with Val30Met mutation.	Amyloid				in press

Adams D, Koike H, Slama M, Coehlo T	Familial amyloid polyneuropathies: a model of medical progress for a fatal disease.	Nat Rev Neurol			in press
Kondo N, Tohnai G, Sahashi K, Iida M, Nakatsuji J, Tsutsumi Y, Hashizume A, Adachi H, Koike H, Shinjo K, Kondo Y, Sobue G, Katsuno M	DNA methylation inhibitor attenuates polyglutamine-induced neurodegeneration by regulating Hes5.	EMBO Mol Med			in press
Ando T, Iijima M, Fukami Y, Nishi R, Ikeda S, Yokoi S, Kawagashira Y, Koike H, Muro Y, Katsuno M	Vasculitic neuropathy with anti-phosphatidylserine/prothrombin complex antibody.	Muscle Nerve			in press
Misawa S, Kuwabara S, Sato Y, Yamaguchi N, Nagashima K, Katayama K, Sekiguchi Y, Iwai Y, Amino H, Suichi T, Yokota T, Nishida Y, Kanouchi T, Kohara N, Kawamoto M, Ishii J, Kuwahara M, Suzuki H, Hirata K, Kokubun N, Masuda R, Kaneko J, Yabe I, Sasaki H, Kaida KI, Takazaki H, Suzuki N, Suzuki S, Nodera H, Matsui N, Tsuji S, Koike H, Yamasaki R, Kusunoki S; Japanese Eculizumab Trial for GBS (JET-GBS) Study Group	Safety and efficacy of eculizumab in Guillain-Barré syndrome: a multicentre, double-blind, randomised phase 2 trial.	Lancet Neurol	17(6)	519-529	2018
Sekijima Y, Yazaki M, Ueda M, Koike H, Yamada M, Ando Y	First nationwide survey on systemic wild-type ATTR amyloidosis in Japan.	Amyloid	25(1)	8-10	2018
Ikumi K, Tsuboi T, Atsuta N, Takeuchi K, Koike H, Katsuno M	Long-standing overt ventriculomegaly without aqueductal stenosis: a case report.	Neurol Clin Neurosci	6(2)	42-44	2018
Sekijima Y, Ueda M, Koike H, Misawa S, Ishii T, Ando Y	Diagnosis and management of transthyretin familial amyloid polyneuropathy in Japan: red-flag symptom clusters and treatment algorithm.	Orphanet J Rare Dis	13(1)	6	2018
Sato T, Terasawa Y, Higa H, Matsuno H, Arai A, Omoto S, Mitsumura H, Toyoda C, Koike H, Iguchi Y	Nerve ultrasound, electrophysiological, and clinical changes in treatment-naive chronic inflammatory demyelinating polyneuropathy: a case report.	J Clin Neurophysiol	36(1)	82-84	2019

Watanabe E, Fujita T, Shimono M, Koike H, Yasumoto S, Hirose S	Recurrent autonomic and sensory neuropathy in a patient with anti-ganglionic acetylcholine receptor antibodies.	eNeurological Sci	12	36-38	2018
小池春樹	体幹部のニューロパチー.	脊椎脊髄ジャーナル	32(1)	27-32	2019
小池春樹	ジカウイルスとギラン・バレー症候群.	BRAIN and NERVE	70(2)	113-120	2018
小池春樹	トランスサイレチン型家族性アミロイドポリニューロパチー (TTR-FAP) ; 診断と新規治療法.	循環器内科	84(4)	462-468	2018
小池春樹	ニューロパチー.	産科と婦人科	85(10)	1177-1181	2018
小池春樹	自己免疫性自律神経障害.	Clinical Neuroscience	36(9)	1042-1045	2018
小池春樹	急性自律神経性感覚性ニューロパチー.	自律神経	55(2)	116-119	2018
中村友彦、小池春樹、勝野雅央	ポリグルタミン病における末梢神経障害 (SBMA と SCA3) .	神経内科	89(5)	473-480	2018
Shimazaki C, Hata H, Iida S, Ueda M, Katoh N, Sekijima Y, Ikeda S, Yazaki M, Fukushima W, Ando Y.	Nationwide Survey of 741 Patients with Systemic Amyloid Light-chain Amyloidosis in Japan.	Intern Med	57	181-187	2018
Shintani Y, Okada A, Morita Y, Hamatani Y, Amano M, Takahama H, Amaki M, Hasegawa T, Ohta-Ogo K, Kanzaki H, Ishibashi-Ueda H, Yasuda S, Shimazaki C, Yoshinaga T, Yazaki M, Sekijima Y, Izumi C.	Monitoring treatment response to tafamidis by serial native T1 and extracellular volume in transthyretin amyloid cardiomyopathy.	ESC Heart Fail	6	232-236	2019
Iida S, Wakabayashi M, Tsukasaki K, Miyamoto K, Maruyama D, Yamamoto K, Takatsuka Y, Kusumoto S, Kuroda J, Ando K, Kikukawa Y, Masaki Y, Kobayashi M, Hanamura I, Asai H, Nagai H, Shimada K, Tsukamoto N, Inoue Y, Tobinai K	Bortezomib plus dexamethasone versus thalidomide plus dexamethasone for relapsed or refractory multiple myeloma.	Cancer Sci	109(5)	1552-1561	2018
Yoshida T, Ri M, Kinoshita S, Narita T, Totani H, Ashour R, Ito A, Kusumoto S, Ishida T, Komatsu H, Iida S	Low expression of neural adhesion molecule, CD56, is associated with poor efficacy of bortezomib plus dexamethasone therapy in multiple myeloma.	PLoS One	13(5)	e0196780	2018

Kinoshita S, Ri M, Kanamori T, Aoki S, Yoshida T, Narita T, Totani H, Ito A, Kusumoto S, Ishida T, Komatsu H, <u>Iida S</u>	Potent antitumor effect of combination therapy with sub-optimal doses of Akt inhibitors and pomalidomide plus dexamethasone in multiple myeloma.	Oncol Lett	15(6)	9450-9456	2018
Endo Y, Hasegawa K, Nomura R, Arishima H, Kikuta KI, Yamashita T, Inoue Y, Ueda M, Ando Y, Wilson MR, Hamano T, Nakamoto Y, Naiki H	Apolipoprotein E and clusterin inhibit the early phase of amyloid- β aggregation in an in vitro model of cerebral amyloid angiopathy.	Acta Neuropathol Commun	7(1)	12	2019
Nakamura M, Misumi Y, Nomura T, Oka W, Isoguchi A, Kanenawa K, Masuda T, Yamashita T, Inoue Y, Ando Y, Ueda M	Extreme Adhesion Activity of Amyloid Fibrils Induces Subcutaneous Insulin Resistance.	Diabetes	68(3)	609-616	2019
Tasaki M, Ueda M, Hoshii Y, Mizukami M, Matsumoto S, Nakamura M, Yamashita T, Ueda A, Misumi Y, Masuda T, Inoue Y, Torikai T, Nomura T, Tsuda Y, Kanenawa K, Isoguchi A, Okada M, Matsui H, Obayashi K, Ando Y	A novel age-related venous amyloidosis derived from EGF-containing fibulin-like extracellular matrix protein 1.	J Pathol			2018 in press
Tsuda Y, Yamanaka K, Toyoshima R, Ueda M, Masuda T, Misumi Y, Ogura T, Ando Y	Development of transgenic <i>Caenorhabditis elegans</i> expressing human transthyretin as a model for drug screening.	Sci Rep	8(1)	17884	2018
Ueda M, Yamashita T, Misumi Y, Masuda T, Ando Y	Origin of sporadic late-onset hereditary ATTR Val30Met amyloidosis in Japan.	Amyloid	25(3)	143-147	2018
Masuda T, Ueda M, Kitajima M, Morita K, Misumi Y, Yamashita T, Obayashi K, Yamashita Y, Ando Y	Teaching NeuroImages: Morphology of lumbosacral dorsal root ganglia and plexus in hereditary transthyretin amyloidosis.	Neurology	91(19)	e1834-e1835	2018
Hirakawa K, Takashio S, Marume K, Yamamoto M, Hanatani S, Yamamoto E, Sakamoto K, Izumiya Y, Kaikita K, Oda S, Utsunomiya D, Shiraishi S, Ueda M, Yamashita T, Yamashita Y, Ando Y, Tsujita K	Non-Val30Met mutation, septal hypertrophy, and cardiac denervation in patients with mutant transthyretin amyloidosis.	ESC Heart Fail	6(1)	122-130	2018

Okuda Y, Yamada T, Ueda M, Ando Y	First Nationwide Survey of 199 Patients with Amyloid A Amyloidosis in Japan.	Intern Med	57(23)	3351-3355	2018
Ikeda T, Masuda T, Ueda M, Yamashita T, Misumi Y, Shinriki S, Ando Y	Unwanted road to anaemia in transthyretin familial amyloid polyneuropathy may continue irrespective of tafamidis treatment.	Ann Clin Biochem	55(5)	571-575	2018
Nishi S, Hoshino J, Yamamoto S, Goto S, Fujii H, Ubara Y, Motomiya Y, Morita H, Takaichi K, Yamagata K, Shigematsu T, Ueda M, Ando Y	Multicentre cross-sectional study for bone-articular lesions associated with dialysis related amyloidosis in Japan.	Nephrology (Carlton)	23(7)	640-645	2018
山下太郎, 植田光晴, 安東由喜雄	手根管症候群に潜む疾患の鑑別と治療 TTR-FAP:トランスサイレチン型家族性アミロイドポリニューロパチー	末梢神経	29(2)	224-231	2018
植田光晴, 安東由喜雄	遺伝性ニューロパチー 家族性アミロイドポリニューロパチー	Clinical Neuroscience	36(9)	1075-1079	2018
植田光晴, 三隅洋平, 増田曜章, 津田幸元, 井上泰輝, 野村隼也, 山下太郎, 安東由喜雄	トランスサイレチンフラグメントのアミロイド形成および細胞毒性の解析	末梢神経	29(1)	42-49	2018
Iwadate D, Hasegawa E, Hoshino J, Hayami N, Sumida K, Yamanouchi M, Sekine A, Kawada M, Hiramatsu R, Suwabe T, Sawa N, Yuasa M, Wake A, Fujii T, Ohashi K, Takaichi K, Ubara Y.	Long-term Outcomes after VAD plus SCT Therapy in a Patient with AL Amyloidosis and Severe Factor X Deficiency.	Intern Med	57(3)	701-706	2018
Haku S, Wakui H, Azushima K, Haruhara K, Kinguchi S, Ohki K, Uneda K, Kobayashi R, Matsuda M, Yamaji T, Yamada T, Minegishi S, Ishigami T, Yamashita A, Ohashi K, Tamura K	Early Enhanced Leucine-Rich α -2-Glycoprotein-1 Expression in Glomerular Endothelial Cells of Type 2 Diabetic Nephropathy Model Mice.	Biomed Res Int		2817045	2018
Yabuuchi J, Hoshino J, Mizuno H, Ozawa Y, Sekine A, Kawada M, Sumida K, Hiramatsu R, Hayami N, Yamanouchi M, Hasegawa E, Suwabe T, Sawa N, Fujii T, Ohashi K, Takaichi K, Ubara Y.	Immunoglobulin G subclass 3 in ISN/RPL lupus nephritis classification.	Clin Nephrol	91(1)	32-39	2019
Takada D, Hoshino J,	Association between renal outcome	Clin Exp	23(3)	335-341	2019

Fujii T, Usui J, Fujii T, Ohashi K, Takaichi K, Suzuki S, Yamagata K, Ubara Y.	and the number of steroid pulse therapies after tonsillectomy in patients with IgA nephropathy.	Nephrol			
Hasegawa J, Hoshino J, Sekine A, Hayami N, Suwabe T, Sumida K, Mise K, Ueno T, Yamanouchi M, Hazue R, Sawa N, Ohashi K, Fujii T, Takaichi K, Ubara Y.	Clinical and histological features of antineutrophil cytoplasmic antibody-associated vasculitis related to antithyroid drugs	Clin Nephrol	89(6)	438-444	2018
Hoshino J, Furuichi K, Yamanouchi M, Mise K, Sekine A, Kawada M, Sumida K, Hiramatsu R, Hasegawa E, Hayami N, Suwabe T, Sawa N, Hara S, Fujii T, Ohashi K, Kitagawa K, Toyama T, Shimizu M, Takaichi K, Ubara Y, Wada T.	A new pathological scoring system by the Japanese classification to predict renal outcome in diabetic nephropathy.	PLoS One	13(2)	e0190923	2018
Yamanouchi M, Hoshino J, Ubara Y, Takaichi K, Kinowaki K, Fujii T, Ohashi K, Mise K, Toyama T, Hara A, Kitagawa K, Shimizu M, Furuichi K, Wada T.	Value of adding the renal pathological score to the kidney failure risk equation in advanced diabetic nephropathy.	PLoS One	13(1)	e0190930	2018
大橋健一	免疫染色によるアミロイドーシス病型診断、現状と将来の取り組み.	病理と臨床	36(7)	710-712	2018
Shiromaru-Sugimoto A, Murakami H, Futamura A, Honma M, Kuroda T, Kawamura M, Ono K	The subjective perception of past, present, and future time in patients with Alzheimer's disease: a qualitative study.	Neuropsychiatr Dis Treat	14	3185-3192	2018
Ono K	Alzheimer's disease as oligomeropathy.	Neurochem Int	119	57-70	2018
Watanabe-Nakayama T, Ono K	High-speed atomic force microscopy of individual amyloidogenic protein assemblies.	Methods Mol Biol	1814	201-212	2018
Shozawa H, Oguchi T, Tsuji M, Yano S, Kiuchi Y, Ono K	Supratherapeutic concentrations of cilostazol inhibits β -amyloid oligomerization in vitro.	Neurosci Lett	677	19-25	2018
二村明徳, 小野賢二郎	認知症関連疾患.	月刊レジデント	11(10)	82-89	2018
小野賢二郎, 山田正仁	アミロイド仮説は否定されるのか.	神経治療学	35(3)	182-186	2018

Sekijima Y, Yazaki M, Ueda M, Koike H, Yamada M, Ando Y	First nationwide survey on systemic wild-type ATTR amyloidosis in Japan	Amyloid	25(1)	8-10	2018
Sekijima Y, Ueda M, Koike H, Misawa S, Ishii T, Ando Y	Diagnosis and management of transthyretin familial amyloid polyneuropathy in Japan: red-flag symptom clusters and treatment algorithm.	Orphanet J Rare Dis	13(6)	doi:10.1186/s13023-017-0726-x	2018
Yazaki M, Yoshinaga T, Sekijima Y, Kametani F and Okumura N	Hereditary Fibrinogen A α -Chain Amyloidosis in Asia: Clinical and Molecular Characteristics	Int J Mol Sci	19(1)	pii: E320 doi: 10.3390/ijms19010320	2018
Kishida D, Yazaki M, Nakamura A, Nomura F, Kondo T, Uehara T, Ikusaka M, Ohya A, Watanabe N, Endo R, Kawaai S, Shimojima Y, Sekijima Y	One novel and two uncommon MEFV mutations in Japanese patients with familial Mediterranean fever: a clinicogenetic study	Rheumatol Int	38(1)	105-110	2018
Ezawa N, Katoh N, Oguchi K, Yoshinaga T, Yazaki M, Sekijima Y	Visualization of multiple organ amyloid involvement in systemic amyloidosis using 11C-PiB PET imaging	Eur J Nucl Med Mol Imaging	45(3)	452-461	2018
Shimazaki C, Hata H, Iida S, Ueda M, Katoh N, Sekijima Y, Ikeda S, Yazaki M, Fukushima W, Ando Y	Nationwide Survey of 741 Patients with Systemic Amyloid Light-chain Amyloidosis in Japan	Intern Med	57(2)	181-187	2018
Adams D, Gonzalez-Duarte A, O'Riordan WD, Yang CC, Ueda M, Kristen AV, Tournev I, Schmidt HH, Coelho T, Berk JL, Lin KP, Vita G, Attarian S, Planté-Bordeneuve V, Mezei MM, Campistol JM, Buades J, Brannagan TH 3rd, Kim BJ, Oh J, Parman Y, Sekijima Y, Hawkins PN, Solomon SD, Polydefkis M, Dyck PJ, Gandhi PJ, Goyal S, Chen J, Strahs AL, Nochur SV, Sweetser MT, Garg PP, Vaishnav AK, Gollob JA, Suhr OB	Patisiran, an RNAi therapeutic, for hereditary transthyretin amyloidosis	N Engl J Med	379(1)	11-21	2018
Ishida M, Yamada Y, Mizutani T, Hara A, Sekijima Y, Ako J, Inomata T	Cardiac Amyloidosis Mimicking Dilated Cardiomyopathy But Showing Relative Apical Sparing of Longitudinal Strain.	Circ J	82(12)	3102-3103	2018

Benson MD, Buxbaum JN, Eisenberg DS, Merlini G, Saraiva MJM, Sekijima Y, Sipe JD, Westermark P	Amyloid nomenclature 2018: recommendations by the International Society of Amyloidosis (ISA) nomenclature committee	Amyloid	25(4)	215-219	2018
Shintani Y, Okada A, Morita Y, Hamatani Y, Amano M, Takahama H, Amaki M, Hasegawa T, Ohta-Ogo K, Kanzaki H, Ishibashi-Ueda H, Yasuda S, Shimazaki C, Yoshinaga T, Yazaki M, Sekijima Y, Izumi C	Monitoring treatment response to tafamidis by serial native T1 and extracellular volume in transthyretin amyloid cardiomyopathy	ESC Heart Fail	6(1)	232-236	2019
Kozuka A, Koyama J, Sekijima Y, Ikeda U	Quantitative analysis of endocardial and epicardial left ventricular myocardial deformation in patients with cardiac amyloidosis.	Shinshu Med J	67(1)	49-60	2019
Miyake Z, Nakamagoe K, Ezawa N, Yoshinaga T, Hashimoto R, Sato T, Sekijima Y, Tamaoka	Late-onset Transthyretin (TTR)-familial Amyloid Polyneuropathy (FAP) with a Long Disease Duration from Non-endemic Areas in Japan.	Intern Med	58(5)	713-718	2019
Buxbaum JN, Brannagan T 3rd, Buades-Reinés J, Cisneros E, Conceicao I, Kyriakides T, Merlini G, Obici L, Plante-Bordeneuve V, Rousseau A, Sekijima Y, Imai A, Waddington Cruz M, Yamada M	Transthyretin deposition in the eye in the era of effective therapy for hereditary ATTRV30M amyloidosis.	Amyloid		in press	2019
Ohashi N, Kodaira M, Morita H, Sekijima Y	Electrophysiological demyelinating features in hereditary ATTR amyloidosis	Amyloid		in press	2019
Koyama J, Minamisawa M, Sekijima Y, Kuwahara K, Katsuyama T, Maruyama K	Role of echocardiography in assessing cardiac amyloidoses: a systematic review	Echocardiogr		in press	2019
関島良樹	遺伝性 ATTR アミロイドーシス	Clinical Neuroscience	36(2)	198-199	2018
関島良樹	ATTR 型 CAA の臨床的意義	神経内科	88(3)	300-304	2018
関島良樹	siRNA を用いた遺伝子治療の現状	最新医学	73(6)	755-780	2018
関島良樹	トランスサイレチン型家族性アミロイドポリニューロパチー	神経治療学	35(1)	47-50	2018

関島良樹	家族性アミロイドポリニューロパチー（遺伝性 ATTR アミロイドーシス）	遺伝子医学	8(1)	123-127	2018
関島良樹	遺伝性 ATTR アミロイドーシスに対する核酸医薬開発	神経内科	89(5)	536-540	2018
加藤修明、関島良樹	AL アミロイドーシス	Clinical Neuroscience	36(9)	1061-1064	2018
Yamamoto T, Endo J, Kataoka M, Matsushashi T, Katsumata Y, Shirakawa K, Yoshida N, Isobe S, Moriyama H, Goto S, Yamashita K, Nakanishi H, Shimanaka Y, Kono N, Shinmura K, Arai H, Fukuda K, Sano M.	Decrease in membrane phospholipids unsaturation correlates with myocardial diastolic dysfunction.	PLoS One	13(12)	e0208396	2018
Umbarawan Y, Syamsunarno MRAA, Koitabashi N, Obinata H, Yamaguchi A, Hanaoka H, Hishiki T, Hayakawa N, Sano M, Sunaga H, Matsui H, Tsushima Y, Suematsu M, Kurabayashi M, Iso T.	Myocardial fatty acid uptake through CD36 is indispensable for sufficient bioenergetic metabolism to prevent progression of pressure overload-induced heart failure.	Sci Rep	8(1)	12035	2018
Shirakawa K, Endo J, Kataoka M, Katsumata Y, Yoshida N, Yamamoto T, Isobe S, Moriyama H, Goto S, Kitakata H, Hiraide T, Fukuda K, Sano M.	IL-10-STAT3-Galectin-3 Axis Is Essential for Osteopontin-Producing Reparative Macrophage Polarization After Myocardial Infarction.	Circulation	138(18)	2021-2035	2018
Ohashi M, Kohno T, Kohsaka S, Fukuoka R, Hayashida K, Yuasa S, Sano M, Takatsuki S, Fukuda K.	Excessive Daytime Sleepiness Is Associated With Depression Scores, But Not With Sleep-Disordered Breathing in Patients With Cardiovascular Diseases.	Circ J	82(8)	2175-2183	2018
Isoda K, Akita K, Kitamura K, Sato-Okabayashi Y, Kadoguchi T, Isobe S, Ohtomo F, Sano M, Shimada K, Iwakura Y, Daida H.	Inhibition of interleukin-1 suppresses angiotensin II-induced aortic inflammation and aneurysm formation.	Int J Cardiol	270	221-227	2018
Umbarawan Y, Syamsunarno MRAA, Koitabashi N, Yamaguchi A, Hanaoka H, Hishiki T, Nagahata-Naito Y, Obinata H, Sano M, Sunaga H, Matsui H,	Glucose is preferentially utilized for biomass synthesis in pressure-overloaded hearts: evidence from fatty acid-binding protein-4 and -5 knockout mice.	Cardiovasc Res	114(8)	1132-1144	2018

Tsushima Y, Suematsu M, Kurabayashi M, Iso T.					
Sano M, Suzuki M, Homma K, Hayashida K, Tamura T, Matsuoka T, Katsumata Y, Onuki S, Sasaki J.	Promising novel therapy with hydrogen gas for emergency and critical care medicine.	Acute Med Surg	5(2)	113-118	2018
Tahara A, Tahara N, Maeda-Ogata S, Bekki M, Sugiyama Y, Sun J, Honda A, Igata S, Fukumoto Y	Clinical hallmarks making diagnosis of infective endocarditis.	J Nucl Cardiol		doi: 10.1007/s12350-019-01686-z.	2019
Ito S, Tahara N, Hirakata S, Kaieda S, Tahara A, Maeda-Ogata S, Bekki M, Sugiyama Y, Honda A, Igata S, Kuromatsu R, Nakashima O, Fukumoto Y	Signal intensity of superb micro-vascular imaging associates with the activity of vascular inflammation in Takayasu arteritis.	J Nucl Cardiol		doi: 10.1007/s12350-019-01665-4.	2019
Tahara N, Kojima R, Yoshida R, Bekki M, Sugiyama Y, Tahara A, Maeda S, Honda A, Igata S, Nakamura T, Sun J, Matsui T, Fukumoto Y, Matsui T, Yamagishi SI	Serum levels of protein-bound methylglyoxal-derived hydroimidazolone-1 are independently correlated with asymmetric dimethylarginine.	Rejuvenation Res		doi: 10.1089/rej.2018.2152.	2019
Igata S, Tahara N, Sugiyama Y, Bekki M, Kumanomido J, Tahara A, Honda A, Maeda S, Nashiki K, Nakamura T, Sun J, Abe T, Fukumoto Y	Utility of the amplitude of RV1+SV5/6 in assessment of pulmonary hypertension.	PLoS One	13(11)	e0206856	2018
Saku K, Tahara N, Takaseya T, Shintani Y, Takagi K, Shojima T, Kurata S, Fujimoto K, Abe T, Fukumoto Y, Tanaka H	Multimodal imaging of cardiac-calcified amorphous tumor.	J Nucl Cardiol		doi: 10.1007/s12350-018-01510-0.	2018
Ishibashi K, Eishi Y, Tahara N, Asakura M, Sakamoto N, Nakamura K, Takaya Y, Nakamura T, Yazaki Y, Yamaguchi T, Asakura K, Anzai T, Noguchi T, Yasuda S, Terasaki F, Hamasaki T, Kusano K	Japanese Antibacterial Drug Management for Cardiac Sarcoidosis (J-ACNES): A multicenter, open-label, randomized, controlled study.	J Arrhythm	34(5)	520-526	2018
Tahara N, Bekki M, Sugiyama Y, Tahara A, Fukumoto Y	Importance of extracardiac FDG uptake to diagnose cardiac sarcoidosis.	J Nucl Cardiol		doi: 10.1007/s12350-018-1425-2.	2018

Imai S, Tahara N, Hiromatsu S, Fukumoto Y, Tanaka H	Endovascular repair for inflammatory abdominal aortic aneurysm.	Eur Heart J Cardiovasc Imaging	19(10)	1191-1192	2018
Maeda S, Tahara N, Takase F, Bekki M, Tahara A, Honda A, Igata S, Sugiyama Y, Nakamura T, Sun J, Kurata S, Fujimoto K, Abe T, Fukumoto Y	Diagnostic performance of FDG-PET/CTA in native mitral valve endocarditis.	J Nucl Cardiol	26(2)	681-683	2019
Bekki M, Tahara N, Tahara A, Igata S, Honda A, Sugiyama Y, Nakamura T, Sun J, Kumashiro Y, Matsui T, Fukumoto Y, Yamagishi S-I	Switching dipeptidyl peptidase-4 inhibitors to tofogliflozin, a selective inhibitor of sodium-glucose cotransporter 2 improves arterial stiffness evaluated by cardio-ankle vascular index in patients with type 2 diabetes: a pilot study.	Curr Vasc Pharmacol		doi: 10.2174/1570161116666180515154555.	2018
Bekki M, Tahara N, Tahara A, Honda A, Igata S, Sugiyama Y, Nakamura T, Sun J, Kurata S, Fujimoto K, Abe T, Tanaka H, Suda K, Fukumoto Y	Anti-inflammatory effect of statin in coronary aneurysms late after Kawasaki disease.	J Nucl Cardiol	26(2)	671-673	2019
Kaida H, Azuma K, Toh U, Kawahara A, Sadashima E, Hattori S, Akiba J, Tahara N, Rominger A, Ishii K, Murakami T, Ishibashi M	Correlations between dual-phase 18F-FDG uptake and clinicopathologic and biological markers of breast cancer.	Hell J Nucl Med	21(1)	35-42	2018
Saku K, Shintani Y, Tahara N, Kikusaki S, Imai S, Shojima T, Takagi K, Kurata S, Fujimoto K, Abe T, Fukumoto Y, Tanaka H	Inflammatory reaction of a pericardial foreign body after cardiac surgery.	J Nucl Cardiol	26(1)	328-329	2019
Saku K, Tahara N, Takagi K, Imai S, Takaseya T, Kurata S, Fujimoto K, Abe T, Fukumoto Y, Tanaka H	Inflammatory activity of degenerated Freestyle valve 17 years after ROSS procedure.	J Nucl Cardiol	25(5)	1863-1864	2018
Yamaki T, de Haas HJ, Tahara N, Petrov A, Mohar D, Haider N, Zhou J, Tahara A, Takeishi Y, Boersma HH, Scarabelli T, Kini A, Strauss HW, Narula J	Cardioprotection by minocycline in a rabbit model of ischemia/reperfusion injury: Detection of cell death by in vivo ¹¹¹ In-GSAO SPECT.	J Nucl Cardiol	25(1)	94-100	2018
Nakamura T, Ogo T, Tahara N, Fukui S, Tsuji A, Ueda J, Fukumoto Y, Nakanishi	Thalidomide for Hereditary Hemorrhagic Telangiectasia With Pulmonary Arterial Hypertension.	Circ J	82(4)	1205-1207	2018

N, Ogawa H, Yasuda S					
Iwanaga J, Watanabe K, Saga T, Tahara N, Tabira Y, Sakuragi A, Kaji K, Takahashi K, Yamaki KI	Anatomical and Radiological Analyses of L-shaped Kidney with Vascular Anomalies.	Kurume Med J	64(1.2)	21-24	2018
Nakamura T, Tahara N, Tahara A, Honda A, Igata S, Bekki M, Sugiyama Y, Sun J, Kumagai E, Kurata S, Fujimoto K, Abe T, Kato S, Tanaka H, Fukumoto Y	Right ventricular workload assessed by FDG-PET in a patient with residual VSD and infundibular pulmonary stenosis after repair of tetralogy of Fallot.	J Nucl Cardiol	25(3)	1053-1055	2018
Nakamura T, Tahara N, Tahara A, Honda A, Bekki M, Sugiyama Y, Sun J, Kumagai E, Kurata S, Fujimoto K, Abe T, Igata S, Fukumoto Y	Myocardial metabolic improvement prior to electrocardiographic or volumetric changes of the right ventricle in pulmonary arterial hypertension.	J Nucl Cardiol	25(1)	358-359	2018

令和元年5月15日

国立保健医療科学院長 殿

機関名 国立大学法
所属研究機関長 職名 学長
氏名 上田 孝典

次の職員の平成30年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患等政策研究事業（難治性疾患政策研究事業）
2. 研究課題名 アミロイドーシスに関する調査研究
3. 研究者名 (所属部局・職名) 学術研究院医学系部門 教授
(氏名・フリガナ) 内木 宏延 (ナイキ ヒロノブ)

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	福井大学	<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称：)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由：)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関：)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由：)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容：)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

平成31年 3月14日

国立保健医療科学院長 殿

機関名 国立大学法

所属研究機関長 職名 学長

氏名 原田 信

次の職員の平成30年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患等政策研究事業（難治性疾患政策研究事業）
2. 研究課題名 アミロイドーシスに関する調査研究
3. 研究者名 (所属部局・職名) 大学院生命科学研究部 ・ 教授
(氏名・フリガナ) 安東 由喜雄 アンドウ ユキオ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無 有 無	左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
		審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	<input checked="" type="checkbox"/>	熊本大学	<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称：)	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由：)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関：)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由：)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容：)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

平成31年 2月 26日

国立保健医療科学院長 殿

機関名 金沢大学

所属研究機関長 職名 学長

氏名 山崎 光博

次の職員の平成30年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利用については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患等政策研究事業（難治性疾患政策研究事業）
2. 研究課題名 アミロイドーシスに関する調査研究
3. 研究者名 (所属部局・職名) 医薬保健研究域医学系・教授
(氏名・フリガナ) 山田 正仁・ヤマダ マサヒト

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	金沢大学	<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する口にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

平成31年4月5日

国立保健医療科学院長 殿

機関名 国立大学法人

所属研究機関長 職名 国立大学法人

氏名 永田 恭

次の職員の平成30年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

- 1. 研究事業名 難治性疾患等政策研究事業（難治性疾患政策研究事業）
- 2. 研究課題名 アミロイドーシスに関する調査研究
- 3. 研究者名（所属部局・職名） 筑波大学医学医療系・教授
 （氏名・フリガナ） 玉岡 晃・タマオカ アキラ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（※3）	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること （指針の名称： ）	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査に場合は、その理由を記載すること。

（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> （無の場合はその理由： ）
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> （無の場合は委託先機関： ）
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> （無の場合はその理由： ）
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> （有の場合はその内容： ）

（留意事項） ・ 該当する□にチェックを入れること。
・ 分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

平成31年 2月22日

国立保健医療科学院長 殿

機関名 国立大学法

所属研究機関長 職名 学長

氏名 佐藤

次の職員の平成30年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患等政策研究事業 (難治性疾患政策研究事業)

2. 研究課題名 アミロイドーシスに関する調査研究

3. 研究者名 (所属部局・職名) 大学院医学研究科・教授

(氏名・フリガナ) 東海林 幹夫・ショウジ ミキオ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。

・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

平成31年 3 月 19 日

国立保健医療科学院長 殿

機関名 虎の門病院

所属研究機関長 職 名 院長

氏 名 大内 尉義

次の職員の平成30年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患等政策研究事業（難治性疾患政策研究事業）
2. 研究課題名 アミロイドーシスに関する調査研究
3. 研究者名 (所属部局・職名) 虎の門病院 ・ 副院長
(氏名・フリガナ) 高市 憲明 ・ タカイチ ケンメイ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	虎の門病院	<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称：)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由：)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関：)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由：)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容：)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

平成31年3月 // 日

国立保健医療科学院長 殿

機関名 自治医科大学

所属研究機関長 職名 学長

氏名 永井良

次の職員の平成30年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益については以下のとおりです。

- 研究事業名 難治性疾患等政策研究事業（難治性疾患政策研究事業）
- 研究課題名 アミロイドーシスに関する調査研究
- 研究者名 (所属部局・職名) 医学部 ・ 教授
(氏名・フリガナ) 山田 俊幸 (ヤマダ トシユキ)

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称：)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由：)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関：)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由：)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容：)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。

・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

平成31年3月26日

国立保健医療科学院長 殿

機関名 公立大学法人和歌山県立医科大学

所属研究機関長 職名 学長

氏名 宮下 和久

次の職員の平成30年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相
いては以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患等政策研究事業（難治性疾患政策研究事業）
2. 研究課題名 アミロイドーシスに関する調査研究
3. 研究者名 （所属部局・職名） 医学部 腎臓内科学講座 教授
（氏名・フリガナ） 重松 隆（シゲマツ タカシ）

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（※3）	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること （指針の名称： ）	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査に場合は、その理由を記載すること。

（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> （無の場合はその理由： ）
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> （無の場合は委託先機関： ）
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> （無の場合はその理由： ）
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> （有の場合はその内容： ）

（留意事項） ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

平成 31 年 3 月 8 日

国立保健医療科学院長 殿

機関名 道後温泉病院

所属研究機関長 職名 院長

氏名 奥田 恭章

次の職員の平成 30 年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患等政策研究事業 (難治性疾患政策研究事業)

2. 研究課題名 アミロイドーシスに関する調査研究

3. 研究者名 内科 院長

(氏名・フリガナ) 奥田 恭章 (オクダ ヤスアキ)

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (無の場合は理由: 検討、作成中)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (無の場合委託先機関: 福井大学)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

2019年 5月 13日

~~厚生労働大臣~~
~~(国立医薬品食品衛生研究所長)~~ 殿
~~(国立保健医療科学院長)~~

機関名 国立大学法人神戸大学

所属研究機関長 職名 学長

氏名 武田 原

次の職員の平成30年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び
いては以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患等政策研究事業 (難治性疾患政策研究事業)

2. 研究課題名 アミロイドーシスに関する調査研究

3. 研究者名 (所属部局・職名) 大学院医学研究科・教授

(氏名・フリガナ) 西 慎一・ニシ シンイチ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	神戸大学	<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

平成31年3月25日

国立保健医療科学院長 殿

機関名 **名古屋大学**

所属研究機関長 職名 **大学院医学系研**

氏名 **門松 健**

次の職員の平成30年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相関については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患等政策研究事業（難治性疾患政策研究事業）
2. 研究課題名 アミロイドーシスに関する調査研究
3. 研究者名（所属部局・職名） 大学院医学系研究科・准教授
(氏名・フリガナ) 小池 春樹・コイケ ハルキ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（※3）	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称：)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査に場合は、その理由を記載すること。

（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由：)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関：)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由：)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容：)

（留意事項） ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

平成31年3月22日

国立保健医療科学院長 殿

機関名 独立行政法人地域医療機能推進機構京

所属研究機関長 職名 院長

氏名 島崎 千尋

次の職員の平成30年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

- 研究事業名 難治性疾患等政策研究事業（難治性疾患政策研究事業）
- 研究課題名 アミロイドーシスに関する調査研究
- 研究者名 （所属部局・職名） 血液内科・院長
（氏名・フリガナ） 島崎 千尋 （シマザキ チヒロ）

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（※3）	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること （指針の名称： _____）	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査の場合は、その理由を記載すること。

（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> （無の場合はその理由： _____）
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> （無の場合は委託先機関： _____）
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> （無の場合はその理由： _____）
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> （有の場合はその内容： _____）

（留意事項） ・該当する口チェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

平成31年 3月 19日

国立保健医療科学院長 殿

機関名 公立大学法人

所属研究機関長 職名 理事長

氏名 郡 健二郎

次の職員の平成30年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患等政策研究事業（難治性疾患政策研究事業）
2. 研究課題名 アミロイドーシスに関する調査研究
3. 研究者名 (所属部局・職名) 大学院医学研究科・教授
(氏名・フリガナ) 飯田 真介 (イイダ シンスケ)

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	名古屋市立大学 医学部	<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

平成31年 3月14日

国立保健医療科学院長 殿

機関名 国立大学法

所属研究機関長 職名 学長

氏名 原田 信

次の職員の平成30年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患等政策研究事業（難治性疾患政策研究事業）
2. 研究課題名 アミロイドーシスに関する調査研究
3. 研究者名（所属部局・職名） 医学部附属病院 ・ 講師
(氏名・フリガナ) 植田 光晴 ・ ウエダ ミツハル

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（※3）	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	熊本大学	<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称：)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査に場合は、その理由を記載すること。

（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由：)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関：)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由：)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容：)

（留意事項） ・ 該当する□にチェックを入れること。
・ 分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

国立保健医療科学院長 殿

機関名 横浜市立大学

所属研究機関長 職 名 学長

氏 名 窪田 吉信

次の職員の平成30年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患等政策研究事業（難治性疾患政策研究事業）
2. 研究課題名 アミロイドーシスに関する調査研究
3. 研究者名 (所属部局・職名) 大学院医学研究科・病態病理学・教授
(氏名・フリガナ) 大橋健一・オオハシケンイチ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

平成31年 3月 7日

国立保健医療科学院長 殿

機関名 昭和大学

所属研究機関長 職名 学長

氏名 小出 良

次の職員の平成30年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

- 研究事業名 難治性疾患等政策研究事業（難治性疾患政策研究事業）
- 研究課題名 アミロイドーシスに関する調査研究
- 研究者名 （所属部局・職名） 医学部内科学講座脳神経内科学部門・教授
（氏名・フリガナ） 小野 賢二郎・オノ ケンジロウ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（※3）	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること （指針の名称：)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査に場合は、その理由を記載すること。

（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> （無の場合はその理由：)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> （無の場合は委託先機関：)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> （無の場合はその理由：)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> （有の場合はその内容：)

（留意事項） ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

平成31年 3月28日

国立保健医療科学院長 殿

機関名 国立大学法人

所属研究機関長 職名 学長

氏名 濱田 州

次の職員の平成30年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患等政策研究事業（難治性疾患政策研究事業）

2. 研究課題名 アミロイドーシスに関する調査研究

3. 研究者名（所属部局・職名） 信州大学医学部 ・ 教授

（氏名・フリガナ） 関島 良樹 ・ セキジマ ヨシキ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（※3）	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること （指針の名称： ）	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査の場合は、その理由を記載すること。

（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> （無の場合はその理由： ）
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> （無の場合は委託先機関： ）
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> （無の場合はその理由： ）
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> （有の場合はその内容： ）

（留意事項） ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

国立保健医療科学院長 殿

平成30

機関名 慶應義塾

所属研究機関長 職名 学長

氏名 長谷山 善

次の職員の平成30年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

- 研究事業名 難治性疾患等政策研究事業（難治性疾患政策研究事業）
- 研究課題名 アミロイドーシスに関する調査研究
- 研究者名 （所属部局・職名） 慶應義塾大学医学部・准教授
（氏名・フリガナ） 佐野 元昭・サノ モトアキ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（※3）	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称：)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査に場合は、その理由を記載すること。

（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

（留意事項） ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

平成31年3月5日

国立保健医療科学院長 殿

機関名 久留米大学
所属研究機関長 職 名 学長
氏 名 永田 見生

次の職員の平成30年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

- 1. 研究事業名 難治性疾患等政策研究事業（難治性疾患政策研究事業）
- 2. 研究課題名 アミロイドーシスに関する調査研究
- 3. 研究者名 （所属部局・職名）医学部内科学講座 心臓・血管内科部門/久留米大学病院 循環器病センター ・ 准教授
（氏名・フリガナ） 田原 宣広・タハラ ノブヒロ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（※3）	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	久留米大学	<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称：)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査に場合は、その理由を記載すること。

（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由：)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関：)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由：)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容：)

（留意事項） ・ 該当する□にチェックを入れること。
・ 分担研究者の所属する機関の長も作成すること。